

松戸市立博物館年報

第32号 — 令和6年度（2024）



松戸市立博物館
MATSUDO MUSEUM

はじめに

令和6年度は、館蔵資料展として、春に「たてたてあなあな―竪穴建物の世界」、夏に「古文書からさぐる大谷口の村」、冬には「博学連携展示 松戸探検 100年前からのくらしのうつりかわり」を行いました。企画展は、秋に「異形土器 縄文時代の不思議なうつわ」を開催いたしました。企画展とワークショップでは、近年導入しました3次元計測技術・3Dプリンターを活用し好評を得ました。さらに記念シンポジウム「異形土器と注口土器からみた縄文後期社会の変容」を開催し、縄文時代の地域間交渉に関する研究成果を紹介いたしました。

そのほか学習支援事業として、例年以上の講座・講演会を開催しております。新しい取り組みとして、プレイルームで、季節にちなんだイベントを月替わりで始めました。

また、館を挙げて取り組んでいる総合展示リニューアル作業では、各分野の有識者を招聘した、総合展示室リニューアル懇談会での活発な議論を経ていただいたアドバイスを活かしていきます。

資料の収集では、市民の皆様から地域に関する大変貴重な資料をご寄贈いただきました。そのほかにも小金原御鹿狩関係の絵図2点を購入いたしました。永く保存し、市民の皆様に御覧いただきたく存じます。

日頃より「博物館友の会」をはじめ、多くの方々よりご尽力・ご支援を賜り、厚くお礼を申し上げます。当館も開館から30年が経過し、施設の改修や総合展示室・主題展示室の全面リニューアルとこどもミュージアムの創設など、課題が山積しております。これら一つ一つに取り組み、市民から愛される博物館を目指して努力する所存でございますので、なにとぞよろしくお願いいたします。

令和7年9月12日

松戸市立博物館

I	沿革	3
II	施設の概要	5
III	事業の概要	6
1	常設展示	7
	(1) 総合展示	
	(2) 主題展示	
	(3) 野外展示	
	(4) 映像展示	
2	資料・企画展示	10
	(1) 館蔵資料展「たてたてあなあな－堅穴建物の世界」	
	(2) 館蔵資料展「古文書からさぐる大谷口の村」	
	(3) 企画展「異形土器 縄文時代の不思議なうつわ」	
	(4) 博学連携展示「松戸探検 100年前からのくらしのうつりかわり」	
3	学習支援	25
	(1) 講演会	
	(2) 講座	
	(3) 体験学習	
	(4) ミュージアムシアター・プレイルーム	
	(5) 館内公開	
	(6) ガイドツアー（常設展示解説）	
	(7) 情報提供	
4	連携事業	34
	(1) 博学連携プログラム	
	(2) その他	
5	調査・研究	39
	(1) 研究員の活動	
	(2) 学芸員の活動	
6	資料の収集と利用	42
	(1) 資料の収集	
	(2) 博物館資料の貸し出し	
	(3) 博物館資料の特別利用	
	(4) 資料の燻蒸等	
7	令和6年度 企画展・館蔵資料展アンケート結果	46
	(1) 館蔵資料展「たてたてあなあな－堅穴建物の世界」	
	(2) 館蔵資料展「古文書からさぐる大谷口の村」	
	(3) 企画展「異形土器 縄文時代の不思議なうつわ」	
	(4) 博学連携展示「松戸探検 100年前からのくらしのうつりかわり」	
IV	組織と運営	50
1	組織	50
2	歳出予算	50
3	事務事業	50
4	各種委員会等	51
5	博物館利用者数の統計	52
6	来訪者	54
V	条例・規則	55
	職員名簿	

I 沿 革

年 月	事 項
昭和39年12月	松戸市公民館に郷土資料室設置(50㎡)
昭和46年 4 月	(財)松戸市開発協会内に移転、松戸市郷土資料館となる。(227.47㎡)
昭和49年11月	松戸市文化ホール内に移転、郷土資料コーナーとなる。(330㎡)
昭和56年 3 月	松戸市文化ホールが博物館相当施設となる。
5 月	松戸市美術館(郷土資料館及び古文書館を含む)構想調査会条例制定 松戸市美術館構想調査会発足[委員 7 名]
昭和58年 8 月	松戸市美術館構想調査会、松戸市美術館(郷土資料館及び古文書館を含む)構想について答申(18回開催)
昭和59年 4 月	社会教育部内に美術館準備室設置
6 月	松戸市美術館(郷土資料館及び古文書館を含む)建設調査会発足[委員10名]
11月	松戸市美術館建設調査会、美術館について答申
昭和60年 3 月	松戸市美術館建設調査会、郷土資料館・古文書館について答申(7回開催)
昭和63年 9 月	市議会に文化施設建設対策特別委員会設置[委員15名]
10月	第4次総合5ヶ年計画で郷土博物館(仮称)建設決定 美術館準備室に博物館担当学芸員を配属
11月	松戸市立郷土博物館展示検討委員会発足[委員10名]
12月	建設用地を総合公園「21世紀の森と広場」内と決定 松戸市立郷土博物館設立懇談会発足[委員 8 名]
平成元年 3 月	文化施設建設対策特別委員会において建築設計事務所選定方式をプロポーザル方式と決定 松戸市立郷土博物館設立懇談会において展示の基本構想を決定
4 月	文化施設建設対策特別委員会において展示設計業者選定方式を特命方式と決定
8 月	総合公園「21世紀の森と広場」内に建設位置決定
11月	松戸市立郷土博物館建築設計事務所選定委員会発足[委員 8 名] 展示基本設計を(株)乃村工芸社に委託
12月	建築設計事務所を(株)佐藤総合計画に決定
平成2年 2 月	建築基本設計を(株)佐藤総合計画に委託
3 月	建築実施設計を(株)佐藤総合計画に委託
6 月	展示実施設計を(株)乃村工芸社に委託
9 月	博物館本体工事を大成・海老澤共同企業体と契約 博物館新築工事着手
平成3年 9 月	展示工事及び展示物製作を(株)乃村工芸社に委託、工事・製作着手
平成4年 1 月	外構工事着手
3 月	植栽工事着手
4 月	美術館準備室から分かれ、博物館開設室設置
6 月	建築工事、外構工事竣工
7 月	野外展示工事着手、植栽工事竣工
9 月	松戸市立博物館条例制定(館名「松戸市立博物館」に決定)
12月	野外展示工事竣工
平成5年 1 月	展示工事竣工 松戸市立博物館管理運営規則制定
3 月	松戸市立博物館開館(29日)
4 月	初代岩崎卓也館長就任 開館記念展(期間: 4月29日から6月13日まで)「松戸写真館—カメラがとらえた松戸の人々」を開催
10月	松戸市立博物館協議会発足[委員10名]

年 月	事 項
平成 6 年 4 月 6 月	機構改革にともない市立図書館より市史編さん係を移管 館蔵「千葉県幸田貝塚出土品」266点 重要文化財指定(28日付)
平成 7 年 6 月	博物館登録 千葉県教育委員会 平成 7 年 6 月 9 日 登録番号第30号 博物館資料数 4,385点(歴史資料1,686点、考古資料2,650点、民俗資料49点)
平成 8 年10月	博物館等資料選定評価委員会発足[委員 5 名]
平成 9 年 3 月	博物館開館 5 周年記念特別展示(期間: 3 月20日から 5 月11日まで) 「シルクロードとガンダーラ」展を開催
平成10年 4 月	博物館事業として「自然史」を加える。(松戸市立博物館条例改正) 機構改革にともない市史編さん係を廃し庶務係に吸収する。
平成13年10月	観覧料に「共通観覧料」を設ける。(松戸市立博物館条例改正)
平成14年 6 月	松戸市立博物館友の会発足(16日)
平成15年10月	松戸市制施行60周年記念・松戸市立博物館開館10周年記念特別展示(期間10月11日から11月30日まで)「川の道 江戸川」展を開催
平成 20 年 3 月 4 月 10月	初代岩崎卓也館長退任 2 代関根孝夫館長就任 組織改革により、係制を廃止 ハイビジョンシアターをミュージアムシアターに改称 松戸市立博物館開館 15 周年記念特別展示(期間:10月11日から 12 月 7 日まで)「縄文時代の東・西」展を開催
平成21年 5 月	市史編さん委員会に、原始・古代及び中世各部会を設置し、松戸市史上巻改訂事業に本格的に着手
平成23年 3 月 4 月	東日本大震災発生(11日) 観覧料「中学生以下は無料」となる。(松戸市立博物館条例改正)
平成24年 3 月 4 月	2 代関根孝夫館長退任 3 代望月幹夫館長就任
平成25年10月	松戸市制施行70周年記念・松戸市立博物館開館20周年記念特別展示(期間:10月 5 日から11月24日まで)「松戸の発掘60年史－市内の遺跡を再検討－」展を開催
平成26年12月	松戸市立博物館等資料選定評価委員会設置要綱」を条例化し、「松戸市立博物館等資料選定評価委員会条例」を制定(平成27年 4 月 1 日施行)
平成27年 2 月	『松戸市史 上巻(改訂版)原始・古代・中世』を刊行
平成30年 4 月	松戸市立博物館管理運営規則第 5 条の観覧料の免除等の(1)「大学生及び大学生以下の者を引率する者」を追加、(3)「身体障害者手帳、療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者」の市内要件を撤廃
平成30年 9 月	松戸市制施行75周年記念・松戸市立博物館開館25周年記念特別展示(期間: 9 月22日から11月25日まで)「ガンダーラ－仏教文化の姿と形－」展を開催
平成31年 3 月	松戸市制施行75周年・松戸市立博物館開館25周年企画展示(期間: 3 月 9 日から 3 月 24 日まで)「日本の太鼓・世界の太鼓」展を開催。21世紀の森と広場に所在する21世紀の森と広場公園管理事務所、森のホール21、および当館による初の連携企画。
令和元年10月	消費税率引き上げに伴う観覧料改定
令和 2 年 4 月	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館(3 月 2 日から 3 月31日まで)
令和 4 年 3 月 4 月	まつどデジタルミュージアム開設 3 代望月幹夫館長退任 4 代渡辺尚志館長就任
令和 4 年 4 月	組織改編により、松戸市教育委員会生涯学習部文化財保存活用課博物館となる。
令和 5 年 4 月	「松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画」策定
令和 5 年 9 月	松戸市制施行80周年・松戸市立博物館開館30周年記念企画展示(期間: 9 月23日から11月12日まで)「あの日の“まつど”－写真でふりかえる150年－」展を開催
令和 7 年 3 月	博物館登録 千葉県教育委員会 令和 7 年 3 月22日 登録番号第30号

Ⅱ 施設の概要

建築の概要

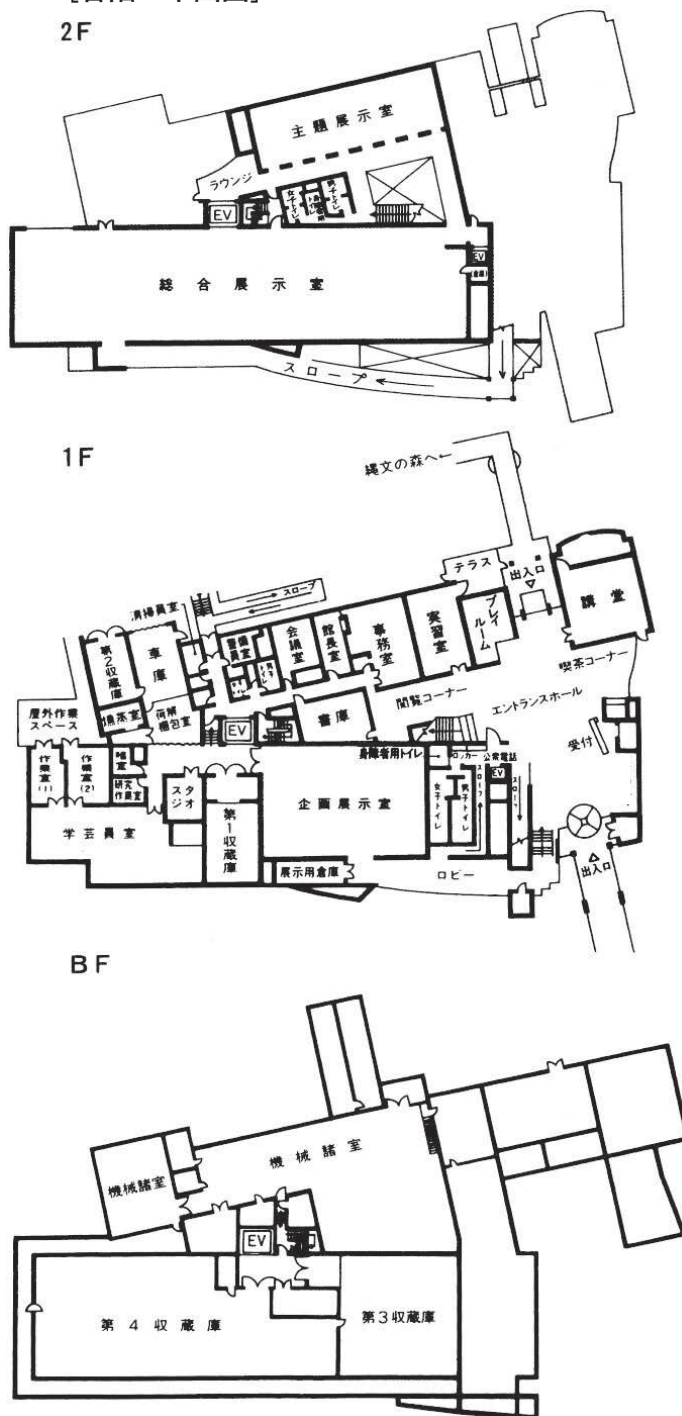
- 1) 敷地面積 7,795.81㎡ 2) 建築面積 2,709.92㎡
 3) 延床面積 5,446.73㎡ 1階 2,515.17㎡／2階 1,542.922㎡／地下1階 1,388.64㎡
 4) 階数 地下1階 地上2階 5) 構造 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造(展示室 PRC梁構造)
 6) 高さ 14.4m

注) 博物館周辺環境との調和をはかるために高さを15m以内に、また地下水などの水脈保全のため地下部分についても10m以内に制限して建設を行った。

[各室の面積]

区分	室名	室数	階層	面積(㎡)
展示部門	総合展示室	1	2	873.40
	主題展示室	1	2	215.09
	企画展示室	1	1	318.85
	展示用倉庫	1	1	33.12
	小計			1,440.46
収蔵・保存部門	第1収蔵庫	1	1	102.67
	第2収蔵庫	1	1	46.20
	第3収蔵庫	1	B1	231.38
	第4収蔵庫	1	B1	472.41
	車庫・荷解梱包室	1	1	109.54
	作業室(1)	1	1	33.71
	作業室(2)	1	1	42.98
	燻蒸庫	1	1	31.32
	小計			1,070.21
教育普及部門	講堂	1	1	124.88
	実習室	1	1	70.97
	プレイルーム	1	1	51.60
	閲覧コーナー	-	1	78.80
	倉庫	-	1	45.66
	小計			371.91
調査研究部門	書庫	1	1	50.19
	学芸室	1	1	193.49
	スタジオ・暗室	1	1	40.30
	研究作業室	1	1	16.99
	小計			300.97
管理部門	館長室	1	1	33.03
	事務室	1	1	83.98
	会議室	1	1	38.27
	警備員室	1	1	25.03
	清掃室	1	1	10.67
	機械諸室	-	B1	575.49
	管理共有部分	-	1	424.54
	小計			1,191.01
サービス部門	エントランスホール	-	1	333.12
	喫茶コーナー	-	1	56.29
	ロビー	-	1	106.32
	スロープ	-	-	196.91
	共有部分	-	-	379.53
	小計			1,072.17
	合 計			5,446.73

[各階の平面図]



Ⅲ 事業の概要

松戸市立博物館設置の目的・基本的性格

(1) 設置の目的

平成4年9月24日制定の「松戸市立博物館条例」第2条に、「本市は、市民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、博物館を次のとおり設置する。」と明記されているが、その理念の淵源は、昭和58年8月31日付け「松戸市美術館（郷土資料館及び古文書館を含む）構想調査会答申」までさかのぼる。

博物館（当時は郷土資料館と呼称）を設置する目的は、以下のように明確に示されている。

松戸市は、長期構想を策定し、21世紀を展望した都市像として、『自然との調和』『人間尊重』を基調とし、市民連帯の下に心のふれあう豊かな都市を目指しています。市民が、国際的視野に立ち、将来を展望しつつ、自らのまちに限りない愛着と誇りをもち、自ら郷土の歴史をふまえ、文化的な生活都市への転換を図るためには、市民の活力と行政の条件整備が一体となった創造的活動が必要です。文化活動は市民の一人ひとりが個性を伸ばし、創造性を培い、自己の向上を図る自発的な行為です。本市においても、その活動は年々活発に行われ、市民はより充実した活動の機会を強く求めています。これらの機運に応えるとともに、豊かな情操と郷土愛を培う文化を未来社会へ継承する使命を果たすため造形美術部門、郷土資料部門、文書部門の機能を有する各文化施設が必要です。

(2) 基本的性格

上記の「設置の目的」から導き出される博物館の「基本的性格」は、以下のように集約される。

- ・市民生活に密着した親しみやすい特色ある郷土資料館とする。
- ・郷土の過去の姿を正しく理解し、未来を展望するために、松戸市域を中心とする原始・古代から現代に至るまでの歴史を概観することができる場とする。
- ・人類的視野にたって、松戸を中心とする地域の風土の中で生きた先人の生活と文化を明らかにしてゆく。
- ・縄文時代を中心とする考古資料をもとに、原始社会の生活文化がどのように展開したかを明らかにする。
- ・教育普及活動を重視し、生涯学習の一環として、市民が気軽に積極的に参加できる自己学習と交流の場とする。
- ・松戸市に関係する考古・歴史・民俗資料の保存に努める。
- ・収集・保存・展示・教育普及活動等をよりよいものにするため、調査・研究活動を重視する。

これらの「設置の目的」と「基本的性格」は今後も松戸市立博物館の上位の目的として堅持する。

1 常設展示

(1) 総合展示

ゾーン1 人類の登場

■ 松戸のあけぼの

旧石器時代の展示空間は常設展示室の入り口部分、展示全体の導入部であるので、短時間で旧石器時代に関心を抱いてもらえるように、見てわかる展示を心がけた。特に実資料(石器)の展示については、単に「石」の羅列にならないように、3つの展示スペース相互に関連をもたせた。

ゾーン2 狩りと採集のムラ

■ 縄文人の暮らし

近年の相次ぐ発掘調査の成果は、これまでの縄文時代の生活に対する私達のイメージを一変させている。ここでは、遺跡から出土する動物・植物遺存体を手がかりにして、ムラの外での生業活動の復元を行い、貝の花貝塚の復元模型を中心にムラの中での日常生活の復元を行っている。

■ ムラのうつりかわり

縄文時代は安定した食糧供給に支えられて、人々は定住を始め、やがてムラを営むようになった。この縄文時代草創期から晩期にいたるムラの盛衰と生活基盤の変化を、幸田貝塚・子和清水貝塚・貝の花貝塚など、市内の遺跡の出土資料等を使用して、明らかにしようと試みている。

■ 人々の交流

縄文時代の人々は、近隣だけでなく、遠く離れた地域の人々とも交流していたことが、遺跡から出土する土器・石器などによってわかる。ここでは、松戸市内から出土した石器石材の産地推定を通して、松戸を中心とした縄文時代の人々の交流圏や、石材の入手経路について、展示を行っている。

ゾーン3 稲作社会の誕生

■ 米作りの暮らし

弥生時代になって中国大陆や朝鮮半島から多くの人々が日本に到来し、様々な新しい技術をもたらした。とりわけ、古墳時代の変化を松戸市域の出土資料を用いて展示している。

■ 古墳の出現

前方後円墳という共通の形の墓が全国で築かれた古墳時代における松戸市域の特質を、河原塚古墳群や栗山古墳群などの出土遺物を用いて展示を行っている。

ゾーン4 下総国のはじまり

■ 古代の松戸

古代の松戸周辺は下総国西端の葛飾郡に含まれていた。下総国の国府は市川市国府台周辺にあったと考えられており、この時期の松戸市域は政治的求心力のある国府の近郊地域として位置づけられる。

ゾーン5 武士と民衆

■ 千葉氏と高城氏

武士が政権の座に就いた中世、鎌倉時代の松戸市域では千葉氏の一族が登場する。本拠とした風早郷を名乗った風早氏である。室町から戦国時代にかけては高城氏が勢力を伸ばした。戦国後期に大谷口小金城を本拠とした高城氏は、東葛飾地域最大の領主となった。高城氏は戦国大名間の争いの渦中で、次第に後北条氏の支配に属するようになり、やがて豊臣秀吉の天下統一により滅亡を余儀なくされた。関連する文書資料および小金城出土資料などから同氏の当該期における位置づけを解説している。

■ 中世人の生と死

中世の人々は現世のみならず来世での幸福を強く願った。市内に残存する資料からその具体的な信仰を探った。板碑は供養碑としてとくに関東地方で流行した。市内の武蔵型板碑の出土地を見ると、多くは小さな谷が入り組んだ台地の縁辺部であるところから、中世人の生活空間が推量される。また関東中世史の研究に欠かせない「本土寺過去帳」所載の地名と一致する場合も多い。過去帳はその存在自体が人々の往生願望の現れであるが、ほかにも合戦記事、多くの職人の名などが見える。展示においてはその豊富な内容の一端を解説している。

ゾーン6 町場と村

■ 近世の村

近世社会に入っところの松戸市域はほとんどが農村で、幕末でも松戸宿・小金宿を除き53の村(新田村を含む)に分かれていた。近世の領主は、村を行政単位として年貢などを徴収したり、宗門改めや五人組制度等によって農民を支配し、村では名主・組頭などの村役人を代表者として生産・生活を営んでいた。当時の農村生活の楽しみには、庚申講などでの共同飲食や、お伊勢参りなど寺社参詣の旅があった。

■ 宿場と河岸

松戸市域には水戸道中松戸宿と小金宿の2つの宿場町があった。幕府の交通政策によって公的に設定された宿は、単なる交通の拠点としてでなく、周辺の流通・経済の中心地として発展した。特に江戸川岸に河岸場が発達した松戸宿は、陸上交通だけでなく、江戸川と利根川の河川交通・流通の中継基地という性格が加わり、また江戸川の対岸金町に幕府が関所を設けたので旅籠も多く、下総北西部の重要な町場に発展した。

■ 小金牧と御鹿狩

下総台地には古代から馬の牧場が設置され放牧が行われていた。江戸幕府はこの台地に直轄の牧場、小金牧・佐倉牧を開設するが、大半が小金牧に含まれた市域は、牧を管理する野馬奉行役宅や金ヶ作役所が設けられ、牧支配の中核地だった。また、徳川将軍家は「御鹿狩」と呼ばれた大規模な狩りを小金原で計4回行ったが、その舞台は現在の松飛台周辺だった。この狩りには、小金原の地元はもちろん武蔵・上総など4か国から農民が勢子として動員されたが、めったにない娯楽的要素もあった。

ゾーン7 都市へのあゆみ

■ 松戸1868～1960

近代を迎えた松戸は葛飾県、印旛県をへて千葉県に編入される。郡役所、郵便局、警察、裁判所が置かれ、東葛飾郡の行政の中心となった。19世紀末から20世紀初頭にかけては常磐線、流鉄、東武野田線(いずれも現在の名称)が市内を通過し、交通網の整備がすすむ。やがて戦争の時代にいたると多くの市民が戦場へ駆り出され、あるいは銃後の生活を強いられた。戦後の松戸は常盤平団地に象徴されるように、首都圏の住宅供給地として、大きくその景観、産業構造を変貌させている。このような近現代での松戸の変化を絵年表を中心に、市域の変遷図、土地利用変遷図などの資料を用い、日本史全体の流れを考慮しつつ解説している。

■ 下谷・谷津・台

松戸市が現在のような姿になったのは、昭和30年～40年代の高度経済成長期に大規模な宅地開発や工業団地の造成が行われたことが大きい。この時期には人口の社会増が大きく、市民の生活も全体的な景観も大きく変貌した。ここでは、下谷・谷津・台というフォークタムから、市域を江戸川低地(下谷)、下総台地の開析谷周辺(谷津)、下総台地の平坦面(台)の3種類に分け、大きな変貌を遂げる直前の昭和30年代前半の景観模型をもとに、地形、水利、生産形態、住まい方などを例にとって先人の人々の生活の場がどのようなものであったのかを対比的に説明している。

■ 常盤平団地の誕生

松戸市は昭和30年代の半ばから、その大半を占めていた近郊農村から首都圏の住宅都市へと急激にその姿を変貌させていくが、その先駆けとなったのが常盤平団地であった。この団地の住民の大半が首都圏の企業に勤めるサラリーマンの家庭で、住宅都市を目指していた松戸市の新しい市民像を代表していた。この展示では、あるサラリーマン家庭の昭和37年の暮らしが当時の生活財によって原寸大の2DKのなかに復元されている。

(2) 主題展示

主題1 考古学と科学の眼

総合展示室で復元されている4000年前の縄文時代に存在した森はどのようにして復元されたのか、また、縄文時代の海岸線をどのようにして知ることが出来たのか。あるいは、文字などのなかった遙か昔の年代がなぜ分かるのか、といった主に自然科学的な手法を用いた歴史の復元方法を紹介している。

主題2 虚無僧寺一月寺

江戸時代の小金宿には、青梅鈴法寺とともに普化宗総本山だった一月寺があり、全国に知られていた。中国唐代の普化禅師を宗祖とする禅宗の一派だった普化宗と、その僧侶である虚無僧が、近世前期に成立して近世中期に最盛期を迎えたこと、また、映像によって虚無僧の姿や生活の歴史や、江戸時代虚無僧に独占された尺八の歴史・音楽などを紹介している。

主題3 二十世紀梨の誕生

果物のナシの代表品種「二十世紀梨」は、現在鳥取県での栽培が有名であるが、実は明治時代に現在の松戸市内で松戸覚之助少年に偶然発見され、次第に全国で栽培されたのであった。そのため、現在市内に「二十世紀が丘」の地名が残るが、この展示室では発見者松戸覚之助のことや、発見以前(江戸時代)から盛んであった下総東葛地域のナシ栽培の歴史、また映像により現在の市内梨園での二十世紀梨の開花から収穫までの栽培の様子を紹介している。

主題4 三匹獅子舞

松戸市内の3地区で演じられている獅子舞は、ひと組の踊り手が3人からなる「三匹獅子舞」と呼ばれるものである。シシ(獅子)が登場する芸能は日本国内ではなじみ深いものであるが、一口にシシといっても、頭の形・演技方ともにさまざまな違いがあることは意外に知られていない。ここでは山路興造氏の所説をもとに、三匹獅子舞の特徴、一人立ちの獅子舞と二人立ちの獅子舞の差異、絵画史料にみる一人立ちの獅子舞と風流踊、といった観点から三匹獅子舞の系譜と地域的広がりを映像を用いて解説している。

(3) 野外展示

竪穴住居復元

博物館北側の台地に、市内の遺跡から発掘された住居跡の資料に基づいて、縄文時代中期の竪穴住居3棟を原寸復元した。常時、竪穴住居1棟を開放し、住居内を自由に見学できるようになっている。

2 資料・企画展示

(1) 館蔵資料展「たてたてあなあな－竪穴建物の世界」

◆展示意図

竪穴建物(住居)は、地面を掘り下げて床を作った建物である。世界各地で用いられたが、日本列島では、おもに10,000年前(縄文時代)から1,000年前(平安時代)の間で使われ、日本家屋の源流の一つになった。松戸市内でも、1,000を越える縄文時代から平安時代の竪穴建物が発掘調査によって検出されている。

今回の展示では、市内でみつかった遺構を中心に、出土した資料や写真から古代竪穴建物の世界を解説した。これによって、竪穴建物の構造や暮らしを楽しみながら学ぶ機会を提供した。

なお、展示の特色として次の点に留意した。まず、考古資料だけでは建物の地下部分しか分からないが多いため、世界各地で記録された近代の竪穴建物の写真や絵画パネルなどを用意し、構造が理解できるようにした。また、ブロックや紙などで竪穴建物を作るコーナーを用意し、お子さんも楽しく学べる空間も併設した。



◆主催 松戸市立博物館(企画担当 藤原哲)

◆後援 千葉テレビ放送株式会社、(公財)松戸市文化振興財団、(一社)松戸市観光協会、北総線沿線地域活性化協議会

◆協力 新京成電鉄株式会社、流鉄株式会社

◆会期 令和6年4月27日(土)～6月2日(日)31日間

◆観覧者数 4,615人

◆観覧料 無料

◆印刷物
 ポスター B2判 300枚
 チラシ A4判 9,000枚
 展示資料リスト A4判 1,000枚(館内で印刷)
 子ども用ワークシート 400枚(館内で印刷)

◆関連企画

1. 学芸員講演会

演題 民族誌からみた竪穴建物

講師 藤原 哲(当館学芸員)

日時 令和6年5月19日(日)

参加人数 47人

2. 子ども用ワークシート

開催月日 展示期間中

参加人数 361人

◆展示資料

No.	資料名・器種等	遺跡名・出土地等	資料種類
1	模型 竪穴建物		模型
2	模型 高床建物		模型
3	縄文土器	八ヶ崎遺跡第1地点 1号住居跡出土	実物
4	縄文土器	原の山遺跡 4号住居跡 出土	実物
5	縄文土器	原の山遺跡 5号住居跡 出土	実物
6	弥生土器	原の山遺跡 6号住居跡 出土	実物

No.	資料名・器種等	遺跡名・出土地等	資料種類
7	土師器・甕	原の山遺跡 2号住居跡出土	実物
8	土師器・甕	原の山遺跡 2号住居跡出土	実物
9	弥生土器・甕	稔台遺跡第2地点 5号住居跡出土	実物
10	弥生土器・壺	稔台遺跡第2地点 4b号住居跡出土	実物
11	土師器・台付甕	殿平賀向山遺跡 6号住居址出土	実物
12	土師器・埴	殿平賀向山遺跡 6号住居址出土	実物
13	土師器・坏	殿平賀向山遺跡 7号住居址出土	実物
14	土師器・坏	殿平賀向山遺跡 7号住居址出土	実物
15	土師器・坏	殿平賀向山遺跡 7号住居址出土	実物
16	土師器・坏	殿平賀向山遺跡 7号住居址出土	実物
17	土師器・坏	殿平賀向山遺跡 7号住居址出土	実物
18	土師器・坏	殿平賀向山遺跡 7号住居址出土	実物
19	土師器・小型丸底壺	仲通遺跡 1号住居跡出土	実物
20	土師器・小型丸底壺	仲通遺跡 1号住居跡出土	実物
21	土師器・高坏	仲通遺跡 1号住居跡出土	実物
22	土師器・高坏	仲通遺跡 1号住居跡出土	実物
23	土師器・甕	仲通遺跡 1号住居跡出土	実物
24	土師器・壺	仲通遺跡 1号住居跡出土	実物
25	土師器・高坏	大谷口遺跡 8号住居跡出土	実物
26	土師器・高坏	大谷口遺跡 8号住居跡出土	実物
27	土師器・高坏	大谷口遺跡 8号住居跡出土	実物
28	土師器・甕	大谷口遺跡 8号住居跡出土	実物
29	土師器・甕	大谷口遺跡 8号住居跡出土	実物
30	土師器・甕	大谷口遺跡 8号住居跡出土	実物
31	土師器・長胴甕	大谷口遺跡 8号住居跡出土	実物
32	土師器・坏	木戸前遺跡 SI1 住居跡出土	実物
33	土師器・坏	木戸前遺跡 SI1 住居跡出土	実物
34	滑石製紡錘車	木戸前遺跡 SI1 住居跡出土	実物
35	滑石製模造品	木戸前遺跡 SI1 住居跡出土	実物
36	鉄製刀子か	木戸前遺跡 SI1 住居跡出土	実物
37	土師器・坏	秋山神宿遺跡 SI7 住居跡出土	実物
38	土師器・甕	秋山神宿遺跡 SI7 住居跡出土	実物
39	貝(アサリ)	東出山遺跡 2号住居跡出土	実物
40	貝(ハマグリ)	東出山遺跡 2号住居跡出土	実物
41	貝(マガキ)	東出山遺跡 2号住居跡出土	実物
42	貝(シオフキ)	東出山遺跡 2号住居跡出土	実物
43	貝(イボキサゴ)	東出山遺跡 2号住居跡出土	実物
44	人骨 壮年男性	貝の花遺跡27号住居跡中央部出土	写真パネル
45	家形埴輪	栗山古墳群(立出し遺跡第1地点)出土	実物
46	家屋文鏡	奈良県佐味田宝塚古墳出土	写真パネル
47	組立模型 竪穴建物		模型
48	ペーパークラフト 竪穴建物初級編		体験資料
49	ペーパークラフト 竪穴建物上級編		体験資料
50	ブロック		体験資料
51	写真パネル	色丹島の竪穴建物	パネル
52	写真パネル	色丹島の竪穴建物	パネル

No.	資料名・器種等	遺跡名・出土地等	資料種類
53	写真パネル	樺太 多来加の竪穴建物廃屋	パネル
54	写真パネル	樺太 多来加の竪穴建物廃屋の残存木材	パネル
55	絵画パネル	樺太南部の竪穴建物	パネル
56	絵画パネル	樺太南部の竪穴建物 内部	パネル
57	絵画パネル	樺太北部 スメレンクル人(ニブフ族)の竪穴建物	パネル
58	写真パネル	金海の竪穴作業場 外観	パネル
59	写真パネル	金海の竪穴作業場 内部	パネル
60	写真パネル	興安嶺での穴居生活	パネル
61	写真パネル	千島アイヌの竪穴建物の構造	パネル
62	写真パネル	占守島の竪穴建物廃屋	パネル
63	絵画パネル	イテリメン族の夏用の建物と冬用の竪穴建物	パネル
64	絵画パネル	イテリメン族の冬用住居内部	パネル
65	絵画パネル	コリヤーク族の竪穴建物図	パネル
66	写真パネル	コリヤーク族の竪穴内部	パネル
67	絵画パネル	オンデレイツケ島(アトカ島)の竪穴建物	パネル
68	絵画パネル	ウラナスカ島の竪穴建物内部	パネル
69	写真パネル	トンプソンの竪穴建物	パネル
70	絵画パネル	トンプソンの竪穴建物図	パネル
71	絵画パネル	ヒダツァ族のアースロッジ内部	パネル
72	絵画パネル	マンダン族のアースロッジ内部	パネル
73	写真パネル	ポーニー族の村	パネル
74	写真パネル	ポーニー族のアース・ロッジ	パネル

(2) 館蔵資料展「古文書からさぐる大谷口の村」

◆展示意図

江戸時代、領主と農民の間に立って村の運営を担った役人が「名主・組頭・百姓代」である。市北部の大谷口村で名主を務めた大熊家の古文書は、年貢や諸役の取りまとめや命令の伝達や記録など、村役人の仕事ぶりを伝えている。なかでも幕末の10代大熊伊兵衛は、領主の旗本土屋家家臣となり、財政改革や長州征討への供奉など、さまざまな仕事に従事した。

大熊家には、農業に根差した大谷口村の信仰を伝える古文書も多く残っている。また、日々の祈りに加え、庚申講や参詣旅行の記録からは、一つの村を越えて広がる人々のネットワークを垣間見ることができる。

本展示では、大熊家文書を通じて、江戸時代をたくましく生きた村人たちの足跡を紹介した。



◆主 催 松戸市立博物館（企画担当 富澤達三）

◆後 援 千葉テレビ放送株式会社、（公財）松戸市文化振興財団、
（一社）松戸市観光協会、北総線沿線地域活性化協議会

◆協 力 新京成電鉄株式会社、流鉄株式会社

◆会 期 令和6年7月13日(土)～8月25日(日)37日間

◆観覧者数 3,659人

◆観 覧 料 無料

◆印 刷 物
 ポスター B 2 判 300枚
 チラシ A 4 判 9,000枚
 展示資料リスト A 4 判 1,000枚(館内で印刷)

◆関連企画

1. 学芸員講演会

演 題 古文書からさぐる大谷口村—石造物をさらに考える—
 講 師 富澤 達三(当館学芸員)
 日 時 令和6年7月21日(日)
 参加人数 69人

2. 展示解説会

概 要 担当学芸員による展示解説
 開催月日 7月20日(土)、8月3日(土)、8月4日(日)、8月18日(日)、8月25日(日)
 参加人数 152人

3. 子ども用ワークシート

概 要 展示資料をみて、クイズに答える。解きおわると缶バッジがもらえる。
 開催月日 展示期間中
 参加人数 358人

◆展示資料

令和6年度館蔵資料展「古文書からさぐる大谷口の村」展示資料リスト ※大きさの単位はmm

No.	資料名	年代	大きさ(展開時)
1. 江戸時代の大谷口村			
1	〔下総国大谷口城絵図〕	享保15年(1730)6月	375×570
2	下総国葛飾郡大谷口村指出帳	元禄11年(1698)4月	240×165
3	大谷口村名寄帳写	寛保2年(1742)10月	245×170
4	去ル丑寅両年分 御知行所七ヶ村皆済目録之扣	慶応3年(1867)12月	245×170
5	覚(道法書 江戸より当村迄6里、賃銭は出村の上相渡)	(近世)亥6月22日	165×160
6	覚(648文飛脚賃受取)	(近世)亥6月24日	165×120
2. 名主はつらいよ(村役人のお仕事)			
7	去卯之御年貢皆済勘定仮目録	天保3年(1832)正月	245×170(245×300)
8	差上願書並証文帳	嘉永4年(1851)2月	240×160
9	当寅田方干枯ニ付御検見御案内帳	嘉永7年(1854)8月	350×130
10	人別送一札之事(武州式郷半領谷中村百姓甚太郎姉よ津、御村百姓初五郎へ縁付につき)	嘉永4年(1851)2月	240×340
11	乍恐以書付御訴奉申上候(大谷口村百姓久右衛門、行方知れず)	安政5年(1858)10月15日	330×470
12	御用留	文政12年(1829)正月	350×130
13	御用留	嘉永4年(1851)正月	250×170(250×320)
14	御用留	嘉永6年(1853)正月	235×165(235×320)
15	覚(小金町助人馬定式并臨時分雇賃当月渡方メ金4両ト167文受取)	(近世)卯11月22日	165×415
16	乍恐以書附ヲ御届ヶ奉申上候(百姓直藏宅焼失御届)	安政3年(1856)2月20日	335×385
3. 大熊伊兵衛と旗本土屋家			
3-1 領主と村人			
17	御年始物并御用私用日記手扣帳	安政2年(1855)正月10日	170×125(125×320)
18	異国船渡来ニ付来ル寅卯辰巳午御収納繰上ゲ金割合取立帳	嘉永6年(1853)11月	350×130(130×650)
19	取極メ申議定書	安政3年(1856)11月	245×170(245×310)
20	〔ペルリ来航諸侯警備持場の図〕	(嘉永)	410×620
21	御用向日記手扣帳	文久2年(1862)正月	170×125(125×315)

No.	資料名	年代	大きさ(展開時)
22	〔①給人格次席及び勝手向御用掛り仰せ付けの下知書／②印付合羽ならびに弓張提灯下付の下知書〕	①安政5年(1858)5月 ②安政6年(1859)3月	170×620(部分展示)
23	諸向御用留	万延2年(1861)正月	245×170(245×300)
3-2 伊兵衛、西へ			
24	〔書状〕(大坂上り道中の報告につき)	慶応元年(1865)閏5月27日	170×1160
25	東海道 小田原(御上洛東海道)	(幕末)	370×245
26	東海道 草津(御上洛東海道)	(幕末)	355×235
27	御進発御供中日記手扣帳	慶応元年(1865)5月14日	180×130(130×330)
28	〔書状〕(正月20日に大坂玉造稲荷附近越中町は印小屋に移る、小屋・ふとん・食事の様子)	慶応2年(1866)正月晦日	180×530
29	〔書状〕(風聞には来る8月ひとまず帰府の様子、長防一条の儀は6月5日打入りの達あると聞くも未だ分からず、物価一般に高値につき)	慶応2年(1866)7月23日	160×930
30	〔書状〕(交替の者、中野村孫右衛門、今井様或は知行所内誰かの内殿様御意見伺い決定)	慶応2年(1866)7月26日	
31	〔書状〕(公方(家茂)様御死去、一橋様公方様ニ相成、長州行は延引ならん)	慶応2年(1866)8月22日	160×720
32	第一大隊 三番小隊下り道中休泊日記	慶応3年(1867)2月	180×130(130×320)
33	〔用人並仰せ付け及び七ヶ村取締役御免につき下知書〕	慶応3年(1867)3月	160×375
4. 旅のたのしみ			
34	三社参詣銚子道中記並東坂東	嘉永元年(1848)3月21日	115×170
35	江戸ヨリ成田山滑川香取息柄(ママ)鹿嶋銚子大杉築(ママ)波日光山安見(江戸日本橋ヨリ日光山マテ凡三拾六里)	(近世)	330×475
36	成田香取鹿島下総道中細見記	(近世後期)	420×530(マット部分)
37	新版下総成田銚子香取常陸鹿島息栖略図	(近世後期)	340×455
38	東海道五十三次 四十九 坂の下(隸書東海道)	嘉永2～5年(1849-52)	360×465(マット部分)
39	〔書状〕(明27日草津出立、沢渡伊香保ニ入湯して妙義、榛名山、ちちぶ参詣、盆前に帰村)	(近世)巳6月26日	255×305
40	上州草津温泉之図	(近世)	320×500
41	覚 西国道中日記帳等合冊	文化9年(1812)	125×180
42	〔西国33ヶ所札所絵図〕	(近世)	620×690
5. 村人たちの祈り			
43	作徳入日記覚帳(「年中家礼日記行事」収録)	弘化5年(1848)正月	330×125(125×650)
44	榛名山弁才天 両社雨乞諸入用割合帳	安政3年(1856)6月	120×330(120×650)
45	榛名山弁才天 両社雨願御札餅集帳	安政3年(1856)8月	125×330
46	庚申塔立方順番(大物・小物)	安政5年(1858)カ	125×345
47	百庚申塔代金請取并建立帳	安政5年(1858)9月	125×330(125×650)
48	覚(庚申塔大1本・小10本代金2分2朱7厘請取につき)	(安政5年[1858]カ)12月朔日	245×180

(3) 企画展「異形土器 縄文時代の不思議なうつわ」

◆展示意図

東日本各地の異形土器を通じて、縄文時代後期の地域間交渉に関する近年の研究成果を紹介する。縄文時代後期には不可解な形態で、機能の不明な土器が多数出現し、異形土器と総称される。北海道から中部高地まで広い範囲に分布し、松戸でも出土例がある。展示では異形土器を手がかりにして地域間交渉の実態を探り、併催の記念シンポジウムも含めて最新の研究成果を広く公開した。また、本展覧会を常設展示リニューアルに向けたデジタル技術活用の試験的実装の機会と位置付け、近年導入した3次元計測技術や3Dプリンタを活用した展示・ワークショップ等を試行した。



◆主催 松戸市立博物館(企画担当 西村広経)

◆後援 千葉テレビ放送株式会社、(公財)松戸市文化振興財団、(一社)松戸市観光協会、北総線沿線地域活性化協議会

◆協力 新京成電鉄株式会社、流鉄株式会社

◆会期 令和6年9月14日(土)~11月4日(月・休)45日間

◆観覧者数 5,866人

◆観覧料 一般 310円(企画・常設展示共通520円)

高校生 150円(企画・常設展示共通250円)

中学生以下 無料

◆印刷物	展示図録	A 4判	1,500部
	シンポジウム要旨集	A 4判	500部
	ポスター	B 2判	350枚
		B 3判	820枚
		A 3判	2,500枚
		B 1判	4枚
	チラシ	A 4判	35,000枚
	展示資料一覧	A 4判	
	こども用ワークシート		

◆関連企画

1. 学芸員講演会

演題 縄文時代後期の異形土器

講師 西村 広経(当館学芸員)

日時 令和6年10月26日(土)

参加人数 68人

2. ギャラリートーク

概要 担当学芸員による展示解説

開催月日 9月14日(土)、9月29日(日)、10月20日(日)、10月26日(土)、11月4日(月・休)

参加人数 223人

3. こどもワークシート「どきはかせからの挑戦状：いけいどきのなぞをとけ！」

概要 展示資料を観察してクイズに答える。全て解きおわると「こども土器博士認定証」がもらえる

開催月日 展示期間中

参加人数 494人

4. 企画展記念シンポジウム「異形土器と注口土器からみた縄文後期社会の変容」

共 催 科学研究費学術変革領域研究（A）
「日本列島域における先史人類の統合生物考古学的研究—令和の考古学改新—」

基調報告 中村 耕作氏（国立歴史民俗博物館）

パネリスト 吉岡 卓真氏（さいたま市教育委員会）
福永 将大氏（九州大学総合研究博物館）
渡辺 幸奈氏（京都大学大学院）
西村 広経（学芸員）

総括コメント 秋田かな子氏（東海大学）

日 時 令和6年10月5日（土）10時00分～16時00分

会 場 森のホール21 レセプションホール

参加人数 152人

5. ワークショップ「ミニチュアてんらんかいをつくろう！」

概 要 3Dプリンタで出力したミニチュアを使って資料の魅力を引き出す並べ方を考え、写真撮影する。資料の形態に親しむとともに、「展示方法」という新しい鑑賞視点を獲得する契機となることを期待して行った。

日 時 10月27日（日）10時00分～16時00分

会 場 プレイルーム

参加人数 24人

6. ワークショップ「異形土器ペイント キミのどきはなにいろ？」

概 要 3Dプリンタで出力した資料のミニチュアを絵の具で自由に着色する。赤彩された資料の意味を考える契機となることを期待して行った。

日 時 9月23日（月・祝）、10月19日（土）10時00分～16時00分

会 場 実習室

参加人数 56人

7. ワークショップ「ゲームで学ぶ土器の古さ／新しさ」

概 要 容器に埋めて隠された3つの土器を発掘して、出土層位をもとに古さを推理するゲーム。

日 時 9月15日（日）、9月28日（土）10時00分～16時00分

会 場 プレイルーム

参加人数 35人

8. MR体験「つまめるミュージアム」

概 要 MR技術を利用して、展示資料の3Dモデルを自分の手でさわっているかのように動かしながら観察する体験。

共 催 一般社団法人 路上博物館

日 時 11月2日（土）、11月3日（日・祝）、11月4日（月・休）

会 場 企画展示室ロビー

参加人数 100人

◆展示資料

No.	資料名	遺跡	所蔵者	備考
1	異形台付土器	貝の花遺跡	松戸市立博物館	
2	香炉形土器	井野長割遺跡	佐倉市教育委員会	複製
3	下部単孔土器	日向南遺跡	福島県文化財センター白河館	
4	異形台付土器	鶴川遺跡群M地点	町田市教育委員会	東京都指定文化財

No.	資料名	遺跡	所蔵者	備考
5	異形台付土器	鶴川遺跡群M地点	町田市教育委員会	東京都指定文化財
6	異形台付土器	小場遺跡	高萩市教育委員会	
7	異形台付土器	吉見台遺跡	佐倉市教育委員会	
8	異形台付土器	王子ノ台遺跡	東海大学校地内遺跡調査団	
9	異形台付土器	加曽利貝塚	千葉市教育委員会	
10	異形台付土器	加曽利貝塚	千葉市教育委員会	
11	石棒	加曽利貝塚	千葉市教育委員会	
12	石棒	加曽利貝塚	千葉市教育委員会	
13	異形台付土器	井野長割遺跡	国立歴史民俗博物館	
14	異形台付土器	井野長割遺跡	国立歴史民俗博物館	
15	異形台付土器	下水遺跡	松戸市教育委員会	
16	異形台付土器	なすな原遺跡	町田市教育委員会	
17	異形台付土器	祇園原貝塚	市原市教育委員会	
18	異形台付土器	祇園原貝塚	市原市教育委員会	
19	異形台付土器	三直貝塚	千葉県教育委員会	
20	異形台付土器	西広貝塚	市原市教育委員会	
21	異形台付土器	西広貝塚	市原市教育委員会	
22	異形台付土器	西広貝塚	市原市教育委員会	
23	異形台付土器	内野第1遺跡	千葉市教育委員会	
24	異形台付土器	井野長割遺跡	佐倉市教育委員会	
25	異形台付土器	中沢貝塚	鎌ヶ谷市教育委員会	
26	異形台付土器	三輪野山貝塚	千葉県教育委員会	
27	異形台付土器	諏訪木遺跡	埼玉県教育委員会	
28	異形台付土器	中沢貝塚	鎌ヶ谷市教育委員会	
29	異形台付土器	諏訪木遺跡	埼玉県教育委員会	
30	異形台付土器	内野第1遺跡	千葉市教育委員会	
31	異形台付土器	貝の花遺跡	松戸市立博物館	
32	異形台付土器	なすな原遺跡	町田市教育委員会	
33	異形台付土器	中沢貝塚	鎌ヶ谷市教育委員会	
34	異形台付土器	中沢貝塚	鎌ヶ谷市教育委員会	
35	異形台付土器	原ヶ谷戸遺跡	埼玉県教育委員会	
36	異形台付土器	祇園原貝塚	市原市教育委員会	
37	異形台付土器	内野第1遺跡	千葉市教育委員会	
38	異形台付土器	嶋越遺跡	千葉県教育委員会	
39	異形台付土器	嶋越遺跡	千葉県教育委員会	
40	異形台付土器	宮内井戸作遺跡	佐倉市教育委員会	
41	異形台付土器	吉見台遺跡	佐倉市教育委員会	
42	異形台付土器	長竹遺跡	埼玉県教育委員会	
43	異形脚付土器	菊間手永遺跡	市原市教育委員会	
44	異形脚付土器	吉見台遺跡	佐倉市教育委員会	
45	手燭形土製品	内野第1遺跡	千葉市教育委員会	
46	手燭形土製品	原ヶ谷戸遺跡	埼玉県教育委員会	
47	手燭形土製品	能満上小貝塚	市原市教育委員会	千葉県指定文化財
48	手燭形土製品	小場遺跡	高萩市教育委員会	

No.	資料名	遺跡	所蔵者	備考
49	釣手土器	馬場小室山遺跡	さいたま市教育委員会	
50	釣手土器	長竹遺跡	埼玉県教育委員会	
51	釣手土器	鹿島台遺跡	千葉県教育委員会	
52	釣手土器	祇園原貝塚	市原市教育委員会	
53	釣手土器	西広貝塚	市原市教育委員会	
54	釣手土器	祇園原貝塚	市原市教育委員会	
55	釣手土器	多古田低地遺跡	匝瑳市教育委員会	
56	異形台付土器	丹後平(2)遺跡	八戸市博物館	
57	異形台付土器	河崎柵擬定地	岩手県教育委員会	
58	異形台付土器	日向南遺跡	福島県文化財センター白河館	
59	異形台付土器	川目A遺跡	岩手県教育委員会	
60	異形台付土器	日向南遺跡	福島県文化財センター白河館	
61	異形台付土器	三直貝塚	千葉県教育委員会	
62	異形台付土器	吉田館遺跡	岩手県教育委員会	
63	異形台付土器	長倉I遺跡	軽米町教育委員会	岩手県指定文化財
64	異形台付土器	長倉I遺跡	軽米町教育委員会	岩手県指定文化財
65	香炉形土器	川目A遺跡	岩手県教育委員会	
66	香炉形土器	田面木平(1)遺跡	八戸市博物館	
67	香炉形土器	松ヶ平D遺跡	福島県文化財センター白河館	
68	釣手土器	又兵衛田A遺跡	福島県文化財センター白河館	
69	香炉形土器	長倉I遺跡	軽米町教育委員会	岩手県指定文化財
70	香炉形土器	尻高(4)遺跡	青森県埋蔵文化財調査センター	
71	香炉形土器	君成田IV遺跡	軽米町教育委員会	
72	香炉形土器	大湊近川遺跡	青森県埋蔵文化財調査センター	
73	香炉形土器	大湊近川遺跡	青森県埋蔵文化財調査センター	
74	香炉形土器	叭屋敷II遺跡	軽米町教育委員会	
75	香炉形土器	板子屋敷3遺跡	軽米町教育委員会	
76	香炉形土器	長倉I遺跡	軽米町教育委員会	
77	香炉形土器	大日向II遺跡	軽米町教育委員会	
78	香炉形土器	沼久保遺跡	岩手県教育委員会	
79	香炉形土器	大日向II遺跡	軽米町教育委員会	
80	香炉形土器	大日向II遺跡	軽米町教育委員会	
81	香炉形土器	大湊近川遺跡	青森県埋蔵文化財調査センター	
82	香炉形土器	川原平(1)遺跡	青森県埋蔵文化財調査センター	
83	下部単孔土器	川目A遺跡	岩手県教育委員会	
84	下部単孔土器	丹後谷地(1)(2)遺跡	八戸市博物館	
85	下部単孔土器	川目A遺跡	岩手県教育委員会	
86	下部単孔土器	川原遺跡	福島県文化財センター白河館	
87	下部単孔土器	王子ノ台遺跡	東海大学校地内遺跡調査団	
88	下部単孔土器	長倉I遺跡	軽米町教育委員会	岩手県指定文化財
89	下部単孔土器	丹後谷地(1)(2)遺跡	八戸市博物館	
90	下部単孔土器	赤柴遺跡	福島県文化財センター白河館	
91	下部単孔土器	大日向II遺跡	軽米町教育委員会	
92	注口土器	王子ノ台遺跡	東海大学校地内遺跡調査団	

No.	資料名	遺跡	所蔵者	備考
93	注口土器	貝の花遺跡	松戸市立博物館	
94	注口土器	貝の花遺跡	松戸市立博物館	
95	注口土器	大木戸遺跡	埼玉県教育委員会	
96	注口土器	柴原A遺跡	福島県文化財センター白河館	
97	注口土器	後田遺跡	松戸市立博物館	
98	注口土器	大木戸遺跡	埼玉県教育委員会	
99	注口土器	大木戸遺跡	埼玉県教育委員会	
100	注口土器	大木戸遺跡	埼玉県教育委員会	
101	注口土器	川目A遺跡	岩手県教育委員会	
102	注口土器	川目A遺跡	岩手県教育委員会	
103	注口土器	上明戸遺跡	青森県埋蔵文化財調査センター	
104	注口土器	丹後平(2)遺跡	八戸市博物館	
105	注口土器	川目A遺跡	岩手県教育委員会	
106	注口土器	川原遺跡	福島県文化財センター白河館	
107	注口土器	日向南遺跡	福島県文化財センター白河館	
108	注口土器	長倉I遺跡	軽米町教育委員会	岩手県指定文化財
109	注口土器	長倉I遺跡	軽米町教育委員会	岩手県指定文化財
110	注口土器	長倉I遺跡	軽米町教育委員会	岩手県指定文化財
111	注口土器	中沢貝塚	鎌ヶ谷市教育委員会	
112	注口土器	なすな原遺跡	町田市教育委員会	
113	注口土器	なすな原遺跡	町田市教育委員会	
114	注口土器	下水遺跡	松戸市教育委員会	
115	注口土器	西広貝塚	市原市教育委員会	
116	注口土器	小場遺跡	高萩市教育委員会	
117	注口土器	小場遺跡	高萩市教育委員会	
118	注口土器	高井東遺跡	埼玉県教育委員会	
119	注口土器	井野長割遺跡	佐倉市教育委員会	
120	深鉢形土器	寿能遺跡	埼玉県教育委員会	
121	浅鉢形土器	西根遺跡	千葉県教育委員会	
122	鉢形土器	なすな原遺跡	町田市教育委員会	
123	鉢形土器	内野第1遺跡	千葉市教育委員会	
124	鉢形土器	なすな原遺跡	町田市教育委員会	
125	壺形土器	宮内井戸作遺跡	佐倉市教育委員会	千葉県指定文化財
126	土器片	荒小路遺跡	福島県文化財センター白河館	
127	土器片	荒小路遺跡	福島県文化財センター白河館	
128	土器片	川目A遺跡	岩手県教育委員会	
129	深鉢形土器	塩喰岩陰遺跡	福島県文化財センター白河館	
130	深鉢形土器	宮内A遺跡	福島県文化財センター白河館	
131	深鉢形土器	宮内A遺跡	福島県文化財センター白河館	
132	深鉢形土器	下水遺跡	松戸市教育委員会	
133	深鉢形土器	西根遺跡	千葉県教育委員会	
134	鉢形土器	下水遺跡	松戸市教育委員会	
135	鉢形土器	内野第1遺跡	千葉市教育委員会	
136	深鉢形土器	寿能遺跡	埼玉県教育委員会	

No.	資料名	遺跡	所蔵者	備考
137	深鉢形土器	寿能遺跡	埼玉県教育委員会	
138	深鉢形土器	西根遺跡	千葉県教育委員会	
139	深鉢形土器	西根遺跡	千葉県教育委員会	
140	浅鉢形土器	後田遺跡	松戸市立博物館	
141	深鉢形土器	後田遺跡	松戸市立博物館	
142	深鉢形土器	寿能遺跡	埼玉県教育委員会	
143	深鉢形土器	田面木平(1)遺跡	八戸市博物館	
144	浅鉢形土器	内野第1遺跡	千葉市教育委員会	
145	深鉢形土器	宮内井戸作遺跡	佐倉市教育委員会	
146	浅鉢形土器	山元(1)遺跡	青森県埋蔵文化財調査センター	
147	浅鉢形土器	山元(1)遺跡	青森県埋蔵文化財調査センター	
148	鉢形土器	丹後谷地(1)(2)遺跡	八戸市博物館	
149	浅鉢形土器	河崎柵擬定地	岩手県教育委員会	
150	深鉢形土器	川原遺跡	福島県文化財センター白河館	
151	浅鉢形土器	角間遺跡	福島県文化財センター白河館	
152	深鉢形土器	弓手原A遺跡	福島県文化財センター白河館	
153	浅鉢形土器	弓手原A遺跡	福島県文化財センター白河館	
154	深鉢形土器	西根遺跡	千葉県教育委員会	
155	深鉢形土器	西根遺跡	千葉県教育委員会	
156	深鉢形土器	宮内井戸作遺跡	佐倉市教育委員会	千葉県指定文化財
157	鉢形土器	小場遺跡	高萩市教育委員会	
158	深鉢形土器	河崎柵擬定地	岩手県教育委員会	
159	深鉢形土器	川目A遺跡	岩手県教育委員会	
160	深鉢形土器	川目A遺跡	岩手県教育委員会	
161	深鉢形土器	川原遺跡	福島県文化財センター白河館	
162	鉢形土器	河崎柵擬定地	岩手県教育委員会	
163	壺形土器	丹後谷地(1)(2)遺跡	八戸市博物館	
164	壺形土器	丹後平(2)遺跡	八戸市博物館	
165	壺形土器	川原遺跡	福島県文化財センター白河館	
166	壺形土器	角間遺跡	福島県文化財センター白河館	
167	壺形土器	角間遺跡	福島県文化財センター白河館	
168	浅鉢形土器	角間遺跡	福島県文化財センター白河館	
169	深鉢形土器	西根遺跡	千葉県教育委員会	
170	深鉢形土器	なすな原遺跡	町田市教育委員会	

(4) 博学連携展示「松戸探検 100年前からのくらしのうつりかわり」 (令和6～7年度実施)

◆展示意図

本展示会は、小学校3年生の社会科カリキュラムに対応したもので、100年ぐらい前の農家のくらしを再現して展示し、さらに松戸の古い写真によって、まちの姿の変化を表現した。今のくらしへ、どのようにうつりかわってきたかを子どもたちに伝える意図を持つものである。



- ◆主催 松戸市立博物館(企画担当 青木 俊也、米村 創)
- ◆会期 令和7年1月15日(水)～5月18日(日)
- ◆観覧者数 11,527人(令和6年度7,032人 令和7年度4,495人)
- ◆観覧料 無料
- ◆印刷物

ポスター	B2判	100枚
ちらし	A4判	10,000枚
探検手帳		1,300枚(館内で印刷)

◆関連企画

1. 土曜ワークショップ(博物館友の会共催)

昔のくらしにまつわる様々な体験ができるワークショップを、会期中の毎週土曜日に開催した。

・「天秤棒で桶をかついでみよう」(会場：企画展示室ロビー)

対象者 一般(子どもから大人まで)

開催月日 ①1月18日、②2月1日、③2月15日、④3月1日、⑤3月15日、⑥3月29日、⑦4月12日、⑧5月3日、⑨5月17日(全て土曜日)

13時00分～15時30分の間で随時

講師 博物館友の会有志

内容 水道がなかった頃、水汲みに使われていた桶を天秤棒で実際に担ぐ体験。屋内で実施のため、水は使用せずおもりで代用。担ぎ方を教わり、上手に運ぶコツを学んだ。

参加人数 304人(①25人②26人③43人④40人⑤46人⑥30人⑦32人⑧57人⑨5人)
(210人※3月31日までの実績)

・「風呂敷をつかってみよう」(会場：企画展示室)

対象者 一般(子どもから大人まで)

開催月日 ①2月8日、②3月8日、③4月5日、④4月26日(全て土曜日)

13時00分～15時30分の間で随時

講師 博物館友の会有志

内容 風呂敷でさまざまな形の物を包み、昔のくらしの工夫を体験した。

参加人数 98人(①20人②24人③29人④25人)
(44人※3月31日までの実績)

・「機織りをしてみよう」(会場：企画展示室ロビー)

対象者 一般(子どもから大人まで)

開催月日 ①1月25日、②2月22日、③3月22日、④4月19日、⑤5月10日(全て土曜日)

13時00分～15時30分の間で随時

講師 博物館友の会サークル・はたくさの会有志

内容 古い布を裂いて作った緯糸(よこいと)を使って、機織り機で布を織る体験。

参加人数 120人(①26人②21人③30人④22人⑤21人)
(77人※3月31日までの実績)

2. 「紙芝居と昔のあそびを楽しむ日」(博物館友の会共催)(会場：企画展示室ロビー)

対 象 者 一般(子どもから大人まで)

開催月日 3月30日(日)

紙芝居 ①13時00分～、②14時30分～

昔のあそび ③13時00分～15時30分の間の紙芝居をしていない時

講 師 紙芝居／紙芝居屋てるさん(峯岸 照恭氏)、昔のあそび／博物館友の会有志

内 容 紙芝居・けん玉・こまなど、昔の子どもたちの世界を再現し、体験した。

参加人数 144人(①39人②42人③63人)

3. 小学生学芸員 米づくり展示解説会(会場：企画展示室)

開催日時 1月26日(日) ①14時00分～、②15時00分～

内 容 一年間を通して、田んぼで米づくりを体験した小学生9名が、その成果をパネルにまとめ、来場者に向けて解説会を行なった。

参加人数 76人(①40人②36人)

◆展示資料

<1>住まう

(1)農家の住まい

資料名	
農家(模型1/20)	農家の間取り(模型2/20)

<2>食べる

(1)かまど

資料名				
かまど(2点)(鋳物、模型1/1)	まき	火吹き竹(2点)	十能	火挟み
火消し壺	七輪(2点)	渋うちわ(2点)	炭入れ	鉄瓶

(2)ご飯を炊く

資料名				
米櫃	一升杓(2点)	五合杓(2点)	一合杓	一斗杓
斗かき	米研ぎ桶	あげざる	羽釜(2点)	飯櫃(2点)
杓文字	飯櫃入れ			

(3)おかずを煮炊きする

資料名				
鉄鍋	銅行平鍋	杓子	焼き網	焙烙
せいろ	すり鉢	すりこ木	おろし金(金属製)	おろし金(陶製)
かつお節削り	脚付きまな板	杓文字掛け	あげざる	酒徳利
醤油徳利				

(4)食卓

資料名				
普段のお膳	飯茶碗(2点)	汁椀(2点)	四つ椀	行事のお膳
ちゃぶ台(2点)	土瓶	茶碗(4点)		

(5)水まわりのくらし

資料名					
井戸車	釣瓶桶	手押しポンプ	手桶	水甕	柄杓
流し台	洗い桶	天秤棒	水桶	背負い籠	

(6)食べ物の保存

資料名		
蠅帳(2点)	甕(3点)	漬け物樽(2点)

<3>着る

(1)着物

資料名			
女の単衣の着物	女の袷の着物と羽織	男の袷の着物と羽織	男子の袷の着物と羽織

(2)着物がどんな糸で織られているか、見てみよう！

資料名			
木綿の着物	木綿の着物の素材(綿花・木綿糸・紬糸・木綿布)	麻の着物	麻の着物の素材(麻・麻糸・麻布)
絹の着物	絹の着物の素材(繭・真綿・絹糸・絹布・紬糸・紬布)		

(3)裁縫

資料名			
針箱	くけ台	尺差し	裁ち板

(4)洗濯

資料名			
たらい	金だらい	洗濯板	洗濯石鹸
鋏	火のし	炭火アイロン	

<4>くらす

(1)夏のくらし

資料名				
蚊帳	蚊遣りぶた	うちわ	すだれ屏風	すだれ

(2)冬のくらし

資料名				
火鉢	五徳	火箸	灰ならし	鉄瓶
炭おこし	十能(炭運び)	炭入れ	やぐら炬燵(2点)	行火
湯たんぽ(陶製)	湯たんぽ(ブリキ製)	掻い巻き布団	敷布団	

(3)掃除

資料名		
座敷ぼうき	ぞうきん	バケツ

(4)明かり

資料名				
燭台・しん切り	手燭	行灯	がんどう	小田原提灯
ランプ(2点)	蛍光灯スタンド			

(5) 聞く

資料名	
蓄音機	ラジオ

(6) 昔の道具ではかってみよう！

資料名			
一合枧	五合枧	一升枧	足あと探偵(足の文数をはかる)
一斗枧	斗かき	身長計(尺と寸の目盛りを併記)	

< 5 > 耕す

資料名				
平鋤	万能	田下駄	田植え定規	田んぼ模型
もみならし	足踏み脱穀機	箕	米俵	俵じょうご
唐箕				

< 6 > 写真で見る松戸のうつりかわり

(1) 知ってる場所、あるかな？～昭和時代と令和時代の写真をくらべてみよう～

展示内容	資料名称
松戸市の地図上に示された27地点の昭和時代と令和時代の同じ地点の写真を並べて展示した。	幸田第一公園(1987年/2019年)
	新松戸駅(旧国鉄/J R)(1973年/2019年)
	小金城址駅(流鉄流山線)(1967年/2019年)
	旭町 坂川端の石造物(1986年/2019年)
	馬橋駅(流鉄流山線)(1954年/2019年)
	馬橋駅(旧国鉄/J R)(1968年/2019年)
	北松戸競輪場前踏切/北松戸競輪場前歩行者用の橋(旧踏切)(1973年/2019年)
	上本郷駅(新京成線)(1970年/2019年)
	古ヶ崎小僧弁天(1936年/2019年)
	松戸駅西口(1957年/2019年)
	松戸駅東口商店街(1971年頃/2019年)
	坂川市民清掃行動デー/坂川(1988年/2019年)
	下横町の旧渡道場(1977年/2019年)
	角町交差点(1985年/2019年)
	北小金駅前(1954年/2019年)
	北小金駅(旧国鉄/J R)(1954年/2019年)
	小金原若芝交差点(1986年/2019年)
	常盤平駅(新京成線)(1966年/2019年)
	常盤平スロープ歩道(1974年/2019年)
	五香駅前商店街(1970年頃/2019年)
	五香駅(新京成線)(1970年/2019年)
	六実駅(旧東武野田線/東武アーバンパークライン)(1970年/2019年)
	常盤平 子和清水(1986年/2019年)
	八柱霊園(1936年/2019年)
	河原塚古墳(1986年/2019年)
	八柱駅(新京成線)(1970年/2019年)
	運動公園体育館(1974年/2019年)

3 学習支援

(1) 講演会

■館長講演会

演 題 江戸時代の小金牧と周辺村々
 対 象 者 一般
 開催月日 令和6年8月24日(土)、8月25日(日)13時00分～15時00分
 ※応募者多数のため、落選者向けに追加講演(25日)を開催した。
 講 師 渡辺 尚志(館長)
 会 場 当館講堂
 参加人数 110人

■歴史を語る

第1回 演 題 常盤平団地への計画と生活史からのアプローチ
 対 象 者 一般
 開催月日 令和6年9月15日(日)13時00分～16時30分
 講 師 志岐 祐一氏(日東設計事務所)、青木 俊也(当館学芸員)
 会 場 当館講堂
 参加人数 27人

第2回 演 題 江戸周辺の鷹場 御三家を中心として
 対 象 者 一般
 開催月日 令和6年11月3日(日・祝)13時00分～15時00分
 講 師 山崎 久登氏(東京都立砂川高等学校主任教諭)
 会 場 当館講堂
 参加人数 50人

第3回 演 題 縄文時代以降の松戸とその周辺の人と自然の関わりの歴史
 対 象 者 一般
 開催月日 令和7年2月15日(土)13時00分～15時00分
 講 師 百原 新氏(千葉大学大学院園芸学研究科教授)
 会 場 当館講堂
 参加人数 57人

■学芸員講演会(会場:当館講堂、13時00分～15時00分)

各学芸員が専門分野に関して講演した。

開催年月	タイトル	講師	参加人数 (うち友の会会員)
令和6年5月19日(日)	民族誌からみた竪穴建物	藤原 哲	47人(15人)
7月21日(日)	古文書からさぐる大谷口村一石造物をさらに考える —	富澤 達三	69人(24人)
10月26日(土)	縄文時代後期の異形土器	西村 広経	68人(21人)
11月30日(土)	小金牧開墾事業と開墾会社一五香六実を拓いた人々 ②—	林 幸太郎	64人(22人)
令和7年2月8日(土)	松戸の「中世を増やす」試み—風早・秋山・高柳から 小金領へ—	中山 文人	63人(15人)

(2) 講座

■古文書を読む(近世入門編)(会場:当館実習室)

開催月日 令和7年1月19日(日)～3月16日(日)までの隔週日曜日(全5回)

講師 富澤達三(学芸員)

内容 市内旧家の古文書をテキストに、当時の時代背景なども説明しながら、くずし字の解説をおこなった。

応募人数 30人

参加人数 延べ112人(①23人②24人③22人④22人⑤21人)

■古文書を読む(近世中級編Ⅰ)(会場:当館実習室)

開催月日 令和6年9月14日(土)～11月10日(日)まで(全5回)

講師 和泉 清司氏(高崎経済大学名誉教授)

内容 千駄堀の名主・土屋亮平家文書の御用留を解説した。

応募人数 35人

参加人数 延べ113人(①27人②22人③22人④20人⑤22人)

■古文書を読む(近世中級編Ⅱ)(会場:当館実習室)

開催月日 令和7年1月18日(土)～3月15日(土)までの隔週土曜日(全5回)

講師 出口 宏幸氏(元江東区文化財主任専門員)

内容 千駄堀の名主・土屋亮平家文書の御用留を解説した。

応募人数 31人

参加人数 延べ133人(①27人②29人③27人④23人⑤27人)

■吾妻鏡を読む(会場:男女共同参画センター「ゆうまつど」)

開催月日 令和6年8月30日(金)～10月25日(金)までの隔週金曜日(全5回)

講師 中山 文人(学芸員)

内容 寿永3年2月25日条から同年3月9日条の途中までを解説・解説した。

応募人数 42人

参加人数 延べ143人(①31人②28人③29人④29人⑤26人)

■古代の住まいを考える(会場:当館実習室)

開催月日 令和7年1月12日(日)、1月25日(土)、2月9日(日)

講師 藤原 哲(学芸員)

内容 古代の住まいの変遷や、住まいに関連する諸問題について解説した。

応募人数 28人

参加人数 延べ59人(①25人②16人③18人)

■パートナー講座

実施年月日	内容	主催者	派遣講師	参加人数
令和6年 6月12日(水)	松戸の江戸時代の村のようす	松戸史談会	富澤 達三 (学芸員)	27人
6月20日(木)	“史料”からみる松戸市の幕末維新	実践話し方研究会	林 幸太郎 (学芸員)	12人
7月20日(土)	大谷口をあるく	松戸三田会	富澤 達三 (学芸員)	44人
9月21日(土)	絵図と写真から読み解く明治・大正・昭和の松戸	フィオリ自治会	林 幸太郎 (学芸員)	7人
10月11日(金)	戦国時代の小金と寺院	小金地区高齢者支援連絡会	中山 文人 (学芸員)	29人
10月24日(木)	うつりかわる“まつど”一戦中・戦後のくらしー	実践話し方研究会	林 幸太郎 (学芸員)	15人

■その他講師派遣等

実施年月日	内容	主催者	派遣講師	場所	参加人数
令和6年 6月8日(土)	「もの」と「こと」：痕跡から行為・認識へ	総合研究大学	藤原 哲 (学芸員)	国立歴史民俗博物館	50人
8月8日(木)	中堅教諭等資質向上研修	寒風台小学校	青木 俊也 (学芸員)	松戸市立博物館	2人
8月21日(水)	森の住宅都市 常盤平団地の生活史1960-2022	常盤平第一小学校	青木 俊也 (学芸員)	松戸市立博物館	9人
10月16日(水)	博物館資料のデジタル・アーカイブ化に関する勉強会	和歌山県教育委員会	西村 広経 (学芸員)	和歌山県立近代美術館 (オンライン参加)	42人
12月6日(金)	歴史系地域博物館の学芸員の活動	明治大学	中山 文人 (学芸員)	明治大学	43人
令和7年 1月21日(火)	東葛飾地区社会教育委員・社会教育関係者合同研修会「明治・大正の松戸と東葛飾郡」	社会教育課	林 幸太郎 (学芸員)	松戸市立博物館	26人
2月20日(木)	令和6年度 まつど生涯学習大学「小金原の御鹿狩」	まつど生涯学習大学	富澤 達三 (学芸員)	松戸市立博物館	142人

(3) 体験学習

■こども体験教室「親も楽しむ 米づくりと展示づくりー小学生学芸員になろうー」(友の会共催)

(会場:21世紀の森と広場の水田・博物館実習室等)

対象者 小学4年生～6年生と保護者の方

開催月日 ① 令和6年4月27日(土) 田おこし・代かき

② 5月11日(土) 田植え

③ 6月29日(土) 田の草取り

④ 7月27日(土) 案山子づくり

⑤ 9月21日(土) 稲刈り

⑥ 10月5日(土) 脱穀

⑦ 11月16日(土) かまどでご飯を炊く・展示づくり①

⑧ 11月30日(土) 展示づくり②

⑨ 12月21日(土) 展示づくり③

⑩ 令和7年1月11日(土)・13日(月) 展示づくり(補講)

⑪ 令和7年1月26日(日) 小学生学芸員展示解説会

内 容 21世紀の森と広場内の水田で、田おこし、代かき、田植え、田の草取り、案山子づくり、稲刈り、脱穀までの一連の米づくりにおける作業を体験し、竈でご飯を炊き、試食した。さらに、その作業を示したパネルをつくり、博学連携展示「松戸探検 100年前からのくらしのうつりかわり」のなかで小学生学芸員コーナーとして展示し、展示解説会を行った。なお、この体験教室には博物館友の会の有志の協力を受けた。

講 師 青木 俊也・米村 創・藤原 哲(学芸員)、平松 澄明(学習支援専門員)、友の会会員有志

応募人数 56人(小学生28人、保護者28人)(※定員10組)

参加人数 延べ172人(①26人②25人③23人④17人⑤18人⑥16人⑦20人⑧8人⑨7人⑩3人⑪9人)

■こども体験教室「親も楽しむ 土鈴づくり」(会場:実習室)

開催日	時間	対象者	講師	応募数	参加人数
令和6年 8月3日(土)	①10:00～11:00	小学生・保護者 ※児童だけの参加も可	藤原 哲 (学芸員)	41人	28人
	②13:30～14:30				
内容:粘土で縄文時代の鈴(土鈴)を作る。					

■こども体験教室「親も楽しむ 勾玉づくり」(会場:実習室)

開催日	時間	対象者	講師	応募数	参加人数
令和6年 8月4日(日)	①10:00～11:00	小学生・保護者 ※児童だけの参加も可	藤原 哲 (学芸員)	56人	28人
	②13:30～14:30				
内容:滑石を研磨して勾玉を作る。					

■こども体験教室「なりきり縄文人体験! 竪穴住居に泊まろう!」

(運営をNPO法人 松戸子育てさばーとハーモニーに委託)

対 象 者 小学5~6年生

<事前説明会>

日 程 令和6年4月27日(土)10:00~12:00

参加人数 49人

<宿泊体験>

日 程 令和6年6月8日(土)13:00~6月9日(日)9:00

令和6年10月12日(土)13:00~10月13日(日)9:00

応募人数 23人

参加人数 12人(各回6人)

内 容 縄文時代文化の一端を体験してもらうため、復元竪穴住居に宿泊した。夕飯時には旧石器時代に行われていたと想定される石蒸し調理を体験したほか、博物館見学时、ドングリ加工体験等のプログラムを実施した。

■体験教室「裂き織りをしてみませんか」(友の会共催)

開催日	時間	対象者	講師	応募人数	参加人数
令和7年 2月6日(水) 2月7日(木)	① 9:40-10:20	一般	はたくさの会会員	20人	20人
	②10:40-11:20				
	③11:40-12:20				
	④13:40-14:20				
	⑤14:40-15:20				
内容:裂いた古布を素材として、新しい布に再生する。					

(4) ミュージアムシアター・プレイルーム

■ミュージアムシアター

公共上映権付きのドキュメンタリーを、講堂において毎日・月替わりで定時上映した。ただし、講演会等の開催時には、上映を中止した。

上映時間 11:00～、13:15～、15:15～

土日祝日の午後1時15分上映分は「キッズシアター」として、子ども向けのアニメーションを上映した。

ミュージアムシアター

上映月	タイトル	上映日数	観覧者数	一日平均
令和6年4月	世界の祭・儀礼2 はじまりの儀礼	24日	76人	3人
5月	現代日本の形成過程49 日本の技術革新	26日	88人	3人
6月	千年の森づくり1 森をつくる	19日	61人	3人
7月	ぼくたちは見たーガザ・サムニ家の子どもたちー	26日	44人	1人
8月	ヒロシマへの誓いーサーロー節子とともにー	26日	60人	2人
9月	南島残照 女たちの針突<ハジチ>	25日	30人	1人
10月	熱帯林を破壊するダークマネー ボルネオ事件	27日	78人	2人
11月	現代日本の形成過程50 日米経済摩擦	24日	34人	1人
12月	千年の森づくり2 森と生きる	22日	48人	2人
令和7年1月	現代日本の形成過程51 経営技術	22日	32人	1人
2月	壊れゆく森から、持続する森へ	23日	53人	2人
3月	司馬遼太郎と城を歩く1 大阪城・小田原城・備中松山城・熊本城	25日	82人	3人

キッズシアター

上映月	タイトル	上映日数	観覧者数	一日平均
令和6年4月	三つの斧、猿の婿どの、天狗と盗人	9日	50人	3人
5月	屁ひり嫁、猫と茶釜の蓋、ちゃくりかきふ	9日	43人	3人
6月	ねずみの婿取り、小石の手紙、だんまりくらべ	8日	26人	3人
7月	花さか爺さん、一寸法師、おむすびころりん	8日	25人	3人
8月	夢を買った男、ねずみ経、牛の嫁入り	8日	27人	3人
9月	八つ化け頭巾、ほれ薬、猿地藏	10日	33人	3人
10月	桃太郎、はちかつぎ姫、十二支のはなし	8日	24人	3人
11月	いくさはやめた、大蛇と狩人、尻尾の釣り	7日	16人	2人
12月	天福地福、菜飯八兵衛、茗荷女房	6日	9人	1人
令和7年1月	因幡の白兔、嫁の坊主頭、三枚のお札	8日	19人	2人
2月	炭焼き長者、金のなる木、お坊さんの手ぬぐい	8日	36人	4人
3月	三人の兄弟、狼の眉毛、どっこいしょ	10日	33人	3人

■プレイルーム

いつでも来館者が楽しみながら学べる場として、年齢問わず無料で開放している。

常設体験プログラムの他にも、企画展示やイベント等に合わせて、縄文土器の文様施文体験や、はにわギターづくりを実施した。今年度からはマンスリープログラムも開始した。

【令和6年度常設体験プログラム】

- ・プレイルームでぬりえ！（こむそう[虚無僧]・たてあなじゅうきょ[竪穴住居]等、12種類）
- ・パズルをたのしもう！（おししがり[御鹿狩]の絵、じょうちゃん・もんちゃんの絵）
- ・アンギン編み体験
- ・アンギン衣装体験
- ・土器パズル
- ・糸車により糸つむぎ（プレイルームスタッフによる実演）

令和6年度利用者総数 13,312人

うちマンスリープログラム参加者数 1,849人

開催月	イベント名	回数	参加人数
4月	こいのぼりづくり	1回	71人
5月	パズルの日	2回	153人
6月	浮世絵スタンプに挑戦 (ちぎり絵、スチレン版画含む)	2回	358人
7月 8月	自由研究対応講座アンギンコースターづくり	6回	206人
11月	なりきり縄文人体験	2回	91人
12月	しめかざりづくり	2回	91人
1月	お正月の遊び	3回	469人
2月	おひなさまづくり	2回	179人
3月	うぐいす笛づくり	2回	231人

(5) 館内公開

対象者 一般

開催月日 ①令和6年8月24日(土)10:00～11:00

②令和6年8月25日(日)10:00～11:00

※応募者多数のため、落選者向けに追加公開(24日)を開催した。

内 容 博物館の多様な活動への理解を促進するため、通常非公開のバックヤード(車庫、荷解梱包室、燻蒸室、学芸員室、スタジオ、機械室、収蔵庫)を紹介・解説するもの。

講 師 林 幸太郎・中山 文人(学芸員)

応募人数 84人

参加人数 合計31人(①13人②18人)

(6) ガイドツアー(常設展示解説)

「人類の登場」から「都市へのあゆみ」まで、2名の展示解説員によるリレー方式の解説会を毎日随時受け付けを行った。(解説時間約30分)。なお、団体観覧者においては適宜開催した。

参加者 299人

(7) 情報提供

■閲覧コーナー

購入図書及び関係諸機関との交換図書の閲覧サービスを行っている。蔵書の一部は開架で提供している。

・蔵書数（令和7年3月31日現在）

開架図書冊数	1,115冊
閉架図書冊数	44,749冊
合計	45,864冊

・閲覧コーナーの利用者数 1,730人

・閉架図書の利用状況

利用人数冊数	68人
利用冊数冊数	229冊

・視聴覚資料数

ビデオテープ	418巻
C D	89巻
D V D	49巻

■刊行物

令和6年度の刊行物は次の通りです。

・松戸市立博物館年報 第31号

A 4 版 77頁 500部 令和6年9月13日

・異形土器 縄文時代の不思議なうつわ

A 4 版 93頁 1,500部 令和6年9月14日

・松戸市立博物館紀要 第32号

A 4 版 45、25頁 700部 令和7年3月26日

■SNSによる情報発信

令和6年4月29日に当館公式Facebook、X(旧Twitter)、Instagramを開設し、最新情報を発信している。

■ICTの活用

- ・松戸市立博物館団体申込受付電子受付開始
- ・3Dモデルを活用した展示（企画展）

■まつどデジタルミュージアム

資料登録数

	歴史	民俗	考古
令和6年度	15,774	4,163	8,256
令和5年度	15,774	4,163	6,028

■ミュージアムショップ

刊行物とミュージアムグッズを販売している。

※価格は税込

ミュージアムグッズ		
ジグソーパズル	5種類	各900円
	1種類	1,200円
絵葉書	8種類	80円
テレホンカード	4種類	700円
※通運丸は売り切れ		
虚無僧ストラップ	2種類	750円
※青色は売り切れ		
一筆箋	4種類	300円
縄文土器レプリカ深鉢型土器		完売
クリアファイル (じょうちゃん・もんちゃん)		完売
クリアファイル (コシッキー1体・3体)	2種類	150円
A5ファイル	2種類	200円
じょうちゃん・もんちゃん コラボシール		200円
小風呂敷		680円
てぬぐい	2種類	550円
ダイカットメモ	2種類	300円
不織布トート	3種類	150円
トートバッグ		390円
※埴輪トートバッグは売り切れ		
ミニタオル		完売
機織りハンドメイドポーチ		完売
2DKの住まい (マスキングテープ)		560円
オリジナル計測野帳		310円

資料集・報告書	
松戸市立博物館歴史資料集1 東漸寺所蔵資料集	700円
松戸市立博物館歴史資料集2 青木源内家所蔵資料目録追加	700円
松戸市立博物館映像記録VTR 送り大師 東葛飾印旛大師講の人々	完売
松戸市立博物館報告書1 松戸の三匹獅子舞(VTR含む)	5,400円
松戸市立博物館報告書2 縄文時代以降の松戸の海と森の復元	1,200円
松戸市立博物館報告書3 松戸市民家調査報告書	完売
松戸市立博物館報告書4 松戸宿場町建築物調査報告書	2,100円
松戸市立博物館報告書5 農村松戸の民俗 -1960年代調査の記録-	800円
松戸市立博物館報告書6 松戸市役所広報課旧蔵写真目録	900円
松戸市立博物館館蔵資料目録1 プラスチック資料デザイン関係資料	2,300円
松戸市立博物館報告書7 森の住宅都市 常盤平団地の生活史1960-2022	1,200円

資料集・報告書	
松戸市立博物館調査報告書8 「こどもミュージアム」展示開発に向けた制作途中報告書	2,000円

図 録	
改訂版 常設展示図録(平成16年度)	完売
開設記念展 松戸写真館 -カメラがとらえた松戸の人々- (平成5年度)	完売
特別展 縄文土器の世界(平成5年度)	完売
企画展 救いの民俗 -地獄極楽冥土の旅-(平成6年度)	完売
特別展 馬と牧 -かつて松戸は牧場だった- (平成6年度)	完売
特別展 稲と魚 -水田をめぐる漁・猟・採集- (平成7年度)	900円
特別展 古墳時代の飾り馬 -馬利用のはじまりをさぐる- (平成7年度)	完売
企画展 小金城主高城氏 (平成8年度平成13年度再販)	完売
特別展 シルクロードとガンダーラ (平成8年度)	1,500円
特別展 福神の世界(平成9年度)	完売
特別展 ネアンデルタール人の復活 (平成10年度)	1,000円
企画展 水戸道中 -宿場と旅人- (平成10年度)	完売
特別展 貝塚を考える(平成10年度)	1,200円
企画展 戦後松戸の生活革新 -新しい暮らし方へのあこがれ- (平成12年度)	完売
企画展 中世の東葛飾 -いのり・くらし・まつりごと- (平成13年度)	1,200円
企画展 弥生人の脳発見! -とっとり青谷上寺地遺跡展- (平成14年度)	完売
企画展 はにわの十字路 -古代の東国の交流と地域性- (平成14年度)	1,000円
特別展 川の道 江戸川(平成15年度)	完売
企画展 昔のくらし探検(松戸版)(平成16年度)	500円
企画展 ベルシャ文明の曙 -文明の基層を探る-(平成17年度)	1,000円
企画展 戦国の城をさぐる -松戸市根本内歴史公園開園記念- (平成18年度)	完売
企画展 大名の旅 -本陣と街道- (平成19年度)	1,000円
特別展 縄文時代の東・西(平成20年度)	1,000円
企画展 人生儀礼の世界(平成21年度)	1,000円
企画展 湯浅喜代治 考古コレクション -夢を追った70年-(平成22年度)	1,000円
企画展 東日本の古墳と渡来文化 -海を越える人とモノ-(平成24年度)	完売
特別展 松戸の発掘60年史 -市内の遺跡を再検討-(平成25年度)	1,000円

図 録		
企画展	Plastic?/Plastic! － 高度経済成長とプラスチック－ (平成26年度)	1,000円
企画展	石斧と人－ 3 万年のあゆみ－ (平成28年度)	800円
企画展	本土寺と戦国の社会(平成29年度)	900円
特別展	ガンダーラ－ 仏教文化の姿と形－ (平成30年度)	1,000円
企画展	松戸と徳川将軍の御鹿狩(令和2年度)	1,000円
企画展	古墳時代のマジカルワールド (令和3年度)	1,000円
企画展	異形土器 縄文時代の不思議なうつわ	1,000円

紀 要		
松戸市立博物館紀要	第1号	1,000円
松戸市立博物館紀要	第2号	1,000円
松戸市立博物館紀要	第3号	1,000円
松戸市立博物館紀要	第4号	700円
松戸市立博物館紀要	第5号	1,000円
松戸市立博物館紀要	第6号	1,000円
松戸市立博物館紀要	第7号	1,000円
松戸市立博物館紀要	第8号	1,000円
松戸市立博物館紀要	第9号	1,000円
松戸市立博物館紀要	第10号	1,000円
松戸市立博物館紀要	第11号	500円
松戸市立博物館紀要	第12号	500円
松戸市立博物館紀要	第13号	400円
松戸市立博物館紀要	第14号	500円
松戸市立博物館紀要	第15号	500円
松戸市立博物館紀要	第16号	600円
松戸市立博物館紀要	第17号	500円
松戸市立博物館紀要	第18号	500円
松戸市立博物館紀要	第19号	400円
松戸市立博物館紀要	第20号	500円
松戸市立博物館紀要	第21号	600円
松戸市立博物館紀要	第22号	500円
松戸市立博物館紀要	第23号	400円
松戸市立博物館紀要	第24号	300円
松戸市立博物館紀要	第25号	400円
松戸市立博物館紀要	第26号	500円
松戸市立博物館紀要	第27号	500円
松戸市立博物館紀要	第28号	700円
松戸市立博物館紀要	第29号	500円
松戸市立博物館紀要	第30号	600円
松戸市立博物館紀要	第31号	600円
松戸市立博物館紀要	第32号	600円

松戸市史		
松戸市史	上巻	完売
松戸市史	上巻(改訂版)「原始・古代・中世」	3,000円
松戸市史	中巻「近世」	5,500円
松戸市史	下巻(一)「明治」	4,000円
松戸市史	下巻(二)「大正・昭和」	3,900円
松戸市史史料編(一)	「大熊家文書」	2,800円
松戸市史史料編(二)	「近世諸家文書」	完売
松戸市史史料編(三)	「萬満寺史料」	3,500円
松戸市史史料編(四)	「本土寺史料」	5,500円
松戸市史史料編(五)上	「秋谷家文書」	8,050円
松戸市史史料編(五)下	「秋谷家文書」	7,500円
松戸市史史料編(六)	「東漸寺史料」	5,000円
松戸市古文書目録(一)	「諸家文書」	1,100円
松戸市古文書目録(二)	「諸家文書」	1,500円
松戸市古文書目録(三)	「本土寺文書他」	2,000円
松戸市古文書目録(四)	「秋谷家文書」	2,500円
松戸市史考古資料集1	大谷口遺跡の土師器と須恵器	300円
松戸市史考古資料集2	千駄堀寒風台遺跡出土遺物を中心とする 考古資料	300円
松戸市史考古資料集3	関場遺跡第2地点出土旧石器資料報告・ 寒風台遺跡出土石器整理報告	300円
松戸市史考古資料集4	上本郷遺跡出土縄文時代後期から 晩期を中心とする考古資料	400円

4 連携事業

(1) 博学連携プログラム

①受け入れ

■博物館実習

令和6年度博物館実習生

班	所 属
第1班	十文字学園女子大学 文芸文化学科 4年
	聖徳大学 文学部 文学科歴史文化コース 4年
	東洋大学 文学研究科史学専攻修士課程 1年
	奈良大学 通信教育部文学部文化財歴史学科 編入
	川村学園女子大学 文学部史学科 4年
第2班	日本大学 芸術学部 演劇学科 4年
	淑徳大学 人文学部 歴史学科 4年
	立正大学 文学部 史学科 4年
	聖心女子大学 現代教養学部 人間関係学科 4年
	日本女子大学 人間社会学部 現代社会学科 4年

(1) 合同実習

月 日	午 前	午 後
7月28日(日)	松戸市立博物館の概要・理念・場所解説	常設展・企画展、館内バックヤード見学

(2) 個別実習

第1班 8月1日～8月7日

月 日	午 前	午 後
8月1日(木)	近世・近代文書資料の整理	同左
8月2日(金)	こども体験教室「土鈴をつくろう」準備	同左
8月3日(土)	こども体験教室「土鈴をつくろう」補助	同左
8月4日(日)	葛飾区郷土と天文の博物館見学	流山市立博物館見学
8月6日(火)	企画展示、又はリニューアル展示の計画	同左
8月7日(水)	展示計画の研究発表	実習まとめ・レポート執筆など

第2班 8月1日～8月7日

月 日	午 前	午 後
8月1日(木)	近世・近代文書資料の整理	同左
8月2日(金)	こども体験教室「勾玉をつくろう」準備	同左
8月3日(土)	こども体験教室「勾玉をつくろう」補助	同左
8月4日(日)	葛飾区郷土と天文の博物館見学	流山市立博物館見学
8月6日(火)	企画展示、又はリニューアル展示の計画	同左
8月7日(水)	展示計画の研究発表	実習まとめ・レポート執筆など

■MCR学級生による企画展の見学会

連携対象 MCR (Matsudo Child-raising Class) ※家庭教育学級の一環として市内在住の小中学生保護者のための学びの場)

開催月日 令和6年10月31日(木)10:00~12:00

内 容 担当学芸員が企画展「異形土器 縄文時代の不思議なうつわ」の概要を講堂で解説後、見学を実施した。

参加人数 27人

■千葉県立小金高等学校インターンシップ

連携対象 千葉県立小金高等学校生徒

開催月日 ①令和6年8月14日(水)、8月15日(木)

②令和6年8月27日(火)、8月28日(水)

③令和6年10月2日(水)、10月3日(木)

内 容 学芸員の指導のもと、SNS投稿文作成(博物館紹介、展示紹介)、資料整理などの体験メニューを行った。

参加人数 合計7人(①2人②4人③1人)

■千葉県立松戸南高等学校インターンシップ

連携対象 千葉県立松戸南高等学校生徒

開催月日 令和6年11月14日(木)

内 容 学芸員の指導のもと、バックヤード見学や資料整理などの体験メニューを行った。

参加人数 2人

■レッツ体験!!2024(まつど市民活動サポートセンター主催)

連携対象 市内在住・在学の中高生、専門学生、大学生等10代から20代の青少年

開催月日 令和6年7月26日(金)、7月27日(土)

内 容 学芸員の仕事体験として、館蔵歴史資料(近代の教科書)の整理、「アングインコースター作り」(プレイルームイベント)の補助、館内のおすすめスポットを紹介してもらう「わたしの松戸市博」(博物館公式SNSで発信)の作成をおこなった。

参加人数 7人

②派遣

■出前講座

市内の小学校・中学校を対象とし、当該校からの要請に応え、博物館学芸員及び学習支援専門員が、通常の授業の中でゲストティーチャーとして指導・支援を行った。

・専修大学松戸中学校

対 象 者 2年生

開催日時 令和6年10月26日(土)

内 容 松戸市域が農村から住宅地へと変化するきっかけをつくった常盤平団地の造成とその後の60年以上に及ぶ居住者の生活の営みを解説した。

講 師 青木 俊也(学芸員)

③事業

■博物館でアート

対 象 者 小学4年生以上

開催日時 ①令和6年7月21日(日)

②令和6年8月25日(日)

③令和6年9月29日(日)

④令和6年10月20日(日)

内 容 博物館の環境を活用して造形活動を行った。令和6年度は色鉛筆を使った松戸の名所の塗り絵とオリジナルの絵馬、クラフトバンド(紙製バンド)を使った縄文時代の編物(ボシエット)を体験した。

講 師 鵜沼 豊・平松 澄明(学習支援専門員)

参加人数 合計36人(①6人②14人③10人④6人)

■第9回博物館アワード

趣 旨 博学連携の一環として、博物館機能並びに環境を生かしたコンクールを開催することにより、児童生徒の博物館に対する理解を深めるとともに、博物館の積極的な活用を推進する機会とする。

募集概要 (1) 募集内容並びに募集対象者

①歴史に関する自由研究部門

小学生3・4年の部、小学生5・6年の部、中学生の部

②歴史に関するイラスト部門

小学生3・4年の部、小学生5・6年の部、中学生の部

(2) 募集期間

令和6年9月3日(火曜日)～9月18日(水曜日)

(3) 表彰

①自由研究部門各部の最優秀作品に対して市長賞、教育長賞、博物館長賞、審査委員長賞、各1点、さらに各部9点優秀賞、その他32点佳作

②イラスト部門各部の最優秀賞作品に対して、市長賞、教育長賞、博物館長賞、審査委員長賞、各1点、さらに各部9点に優秀賞、その他57点佳作

応募点数

	小学生3・4年の部	小学生5・6年の部	中学生の部	合計
自由研究部門	38	62	67	167
イラスト部門	48	61	244	353

応募校数 自由研究部門 31校

イラスト部門 42校

■第9回博物館アワード作品展

展示意図 第9回博物館アワード(歴史自由研究部門、歴史イラスト部門)に応募した小中学生の入賞、入選作品を展示した。

主 催 松戸市立博物館

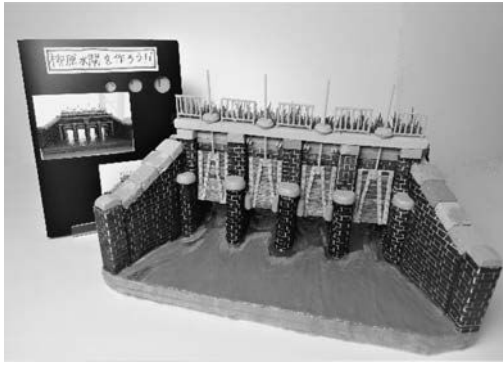
会 期 令和6年11月23日(土・祝)～12月8日(日)

会 場 松戸市立博物館 企画展示室

観 覧 料 無料

作 品 数 自由研究部門 45点

イラスト部門 280点



自由研究部門 市長賞
「柳原水閘を作ろう!!」
(小金北小学校 4年)



自由研究部門 教育長賞
「おじいちゃんの戦争体験」
(松ヶ丘小学校 4年)



自由研究部門 博物館長賞
「松戸の標識柱 説明完全コンプリート集」
(河原塚中学校 2年)



自由研究部門 審査委員長賞
「79年目の夏~戦争の記憶を辿って~」
(西武台千葉中学校 3年)



イラスト部門 市長賞
「彌榮松戸」
(河原塚中学校 3年)



イラスト部門 教育長賞
「待望の6月」
(馬橋北小学校 6年)



イラスト部門 博物館長賞
「河原塚中学校と古墳」
(河原塚中学校 1年)



イラスト部門 審査委員長賞
「いいことやった空海さん」
(聖徳大学付属小学校 3年)

■森のこども館はくぶつかんチーム

主 催 松戸市立博物館・森のこども館

対 象 者 市内在住の小学生

趣 旨 体験型を通年の連続講座として実施し知識・経験を蓄積していくことで、歴史・文化に関する関心と理解を養う。

日 時 ①令和6年6月16日(日)10:30~11:30

②令和6年8月18日(日)10:30~11:30

③令和6年10月20日(日)10:30~11:30

④令和6年12月22日(日)10:30~11:30

⑤令和7年2月16日(日)10:30~11:30

場 所 森の工芸館、松戸市立博物館実習室ほか

内 容 ①縄文原体(縄目模様のもととなるよりひも)の復元製作及び文様の差異の検証

②石蒸し料理

③企画展見学

④種実の採集効率に関する実験・検証

⑤ふりかえり

刊 行 物 連続講座の内容を紹介したパンフレット(『森のこども館×松戸市立博物館 はくぶつかんチーム vol.2』)を刊行し、市内各所で配布。

参加人数 合計55人(①11人②11人③11人④11人⑤11人)

講 師 西村 広経(学芸員)

(2) その他

■野菊野こども館ワークショップ「なぞときじょうもんどき」

連携対象 野菊野こども館

対 象 者 小学生

開催月日 令和6年7月31日(水) 13:30~15:00

内 容 縄文土器破片の観察、施文技術の解説、土版製作をした。

場 所 野菊野こども館

講 師 西村 広経(学芸員)

参加人数 15人

■3館連携事業 まつど文化のMORI土器クイズ「これはどき?こんなどき!」

概 要 博物館・21世紀の森と広場・森のホール21の各所に3Dプリンタで出力した企画展「異形土器」の展示資料のレプリカを設置。来場者は設置場所をまわり、ラリーシートに掲載された土器の中から設置されているものと同じ土器の番号を選ぶ。回答済みのラリーシートを博物館プレイルームに持参すると景品がもらえる。

開催期間 令和6年9月14日(土)~11月4日(月・休)

場 所 松戸市立博物館・21世紀の森と広場・森のホール21

参加人数 696人

■福祉施設出店販売

概 要 松戸市共同販売推進協議会と連携し、市内福祉施設による出店販売を実施し、参加者やお客様から好評を得た。

開催期間 令和7年3月1日(土)、3月8日(土)

場 所 松戸市立博物館ロビー

参加事業者 3事業者

5 調査・研究

(1) 研究員の活動

上守 秀明(公益財団法人千葉県教育振興財団文化財センター)

研究テーマ

「幸田貝塚発掘調査の再検討」

成果

幸田貝塚第1次～2次調査の出土土器を分析した。未報告資料を含めて型式学的に検討した結果、土器群は概ね縄文時代前期前葉の範疇で理解することができ、従前の理解を追認することとなった。

(2) 学芸員の活動

富澤 達三 専門分野：日本近世史・歴史民俗資料学

研究テーマ：「松戸市域の近世古文書」「モノ資料・図像資料から探る松戸の近世」

[年間活動]

- ・学芸員講演会「古文書からさぐる大谷口村」(令和6年7月21日)
- ・パートナー講座「松戸の江戸時代の村のようす」(令和6年6月12日、松戸史談会)
- ・パートナー講座「大谷口をあるく」(令和6年7月20日、松戸三田会)
- ・館蔵資料展「古文書からさぐる大谷口の村」(令和6年7月13日から8月25日)

[執筆]

- ・「大谷口神明神社の百庚申について」『松戸市立博物館紀要』第31号(令和6年3月26日)

[外部機関等協力活動]

- ・神奈川大学日本常民文化研究所非文字資料センター、研究協力者(令和6年4月1日～令和7年3月31日)
- ・まつど生涯学習大学「小金原の御鹿狩」(令和7年2月20日、市民劇場)

[所属学会]

- ・地方史研究協議会、関東近世史研究会、明治維新史学会、日本民俗学会、国際浮世絵学会

藤原 哲 専門分野：考古学

研究テーマ：「古代の武器・軍事組織の研究」

[年間活動]

- ・こども体験教室「親も楽しむ勾玉づくり」(令和6年8月3日)
- ・こども体験教室「親も楽しむ土鈴づくり」(令和6年8月4日)
- ・講演会講師 総合研究員大学院大学公開講演「「もの」と「こと」：痕跡から行為・認識へ」(令和6年6月8日)

[執筆]

- ・「考古学は戦争や軍事組織をどのように認識するのか?」「もの」と「こと」：痕跡から行為・認識へ」『歴史研究の最前線』26(令和7年3月)

[所属学会]

日本考古学協会、考古学研究会

西村 広経 専門分野：先史考古学

研究テーマ：「縄文時代後期中葉土器群の研究」「先史時代における社会複雑化過程の研究」

[年間活動]

- ・企画展「異形土器 縄文時代の不思議なうつわ」担当(令和6年9月14日～11月4日)
- ・講演会講師 学芸員講演会「縄文後期の異形土器」(令和6年10月26日)

- ・発表「東日本の後期中葉土器群と異形土器」 令和6年度企画展記念シンポジウム「異形土器と注口土器からみた縄文後期社会の変容」 令和6年10月5日 千葉県松戸市 森のホール21

[外部機関等協力]

- ・ワークショップ講師「なぞとき じょうもんどき」(野菊野こども館 令和6年7月31日)
- ・千葉大学非常勤講師 博物館資料論A (令和7年2月3日～令和7年3月3日)

[執筆]

- ・「土器型式編年論 後期」『縄文時代』35 (令和6年5月25日)
- ・(編著)『異形土器 縄文時代の不思議なうつわ』松戸市立博物館 (令和6年9月14日)

[所属学会]

日本考古学協会、考古学研究会、青森県考古学会、早稲田大学考古学会、縄文時代文化研究会

米村 創 専門分野：民俗学

研究テーマ：「祭礼と行事で形成される地域コミュニティの研究」

[年間活動]

- ・体験教室講師「親も楽しむ 米づくりと展示づくり—小学生学芸員になろう—」(友の会共催) (令和6年4月27日～令和7年1月26日)
- ・博学連携展示「松戸探検 100年前からのくらしのうつりかわり」担当 (令和7年1月15日～5月18日)

[外部機関等協力]

- ・国分寺市教育委員会 国分寺市史編さん推進委員会 専門部会専門員 (令和6年10月1日～令和7年3月31日)

[所属学会]

日本民俗学会、日本民具学会、伝承文化学会、西郊民俗談話会、埼玉民俗の会、富山民俗の会

林 幸太郎 専攻分野：日本近現代史

研究テーマ：「近代における開墾事業の実態と地域社会への影響に関する研究」

「華族・士族の社会的役割に関する研究」

[年間活動]

- ・学芸員講演会「小金原開墾事業と開墾会社—五香六実を拓いた人々②—」(令和6年11月30日)
- ・パートナー講座「“史料”からみる松戸市の幕末維新」(令和6年6月20日／実践話し方研究会)
- ・パートナー講座「絵図と写真から読み解く明治・大正・昭和の松戸」(令和6年9月21日／ゼファーヒルズ松戸フィオーリーナ自治会)
- ・パートナー講座「うつりかわる“まつど” —戦中・戦後のくらし—」(令和6年10月24日／実践話し方研究会)
- ・東葛飾地区社会教育委員・社会教育関係者合同研修会「明治・大正の松戸と東葛飾郡」(令和7年1月21日)

[外部機関等協力活動]

- ・八街市史編さん委員会近現代専門部会専門委員 (令和6年4月1日～令和7年3月31日)
- ・公益財団法人徳川黎明会徳川林政史研究所非常勤研究員 (令和6年4月1日～令和7年3月31日)

[執筆]

- ・「一地方士族の理財論—庄内藩士族松森胤保を事例に—」(近代租税史研究会編『近代日本の租税と社会』有志社、令和6年10月)
- ・「資料紹介 松戸市立博物館所蔵「大谷口村大熊家文書」—大熊伊兵衛と「御進発御供」—」(『松戸市立博物館紀要』第32号、令和7年3月)

[所属学会]

明治維新史学会、地方史研究協議会、首都圏形成史研究会、千葉歴史学会、駒沢史学会

中山 文人 専門分野：日本中世史
研究テーマ：「関東中世史の研究」

[年間活動]

- ・講座講師「吾妻鏡を読む」（全5回、令和6年8月30日～10月25日の隔週金曜日）
- ・講演会講師 学芸員講演会「松戸の『中世を増やす』試み一風早、秋山、高柳から小金領まで」（令和7年2月8日）

[外部機関等協力活動]

- ・パートナー講座講師「戦国時代の小金と寺院」（令和6年10月11日、小金地区高齢者支援連絡会）
- ・明治大学学芸員養成課程特別講義講師「歴史系地域博物館の学芸員の活動」（令和6年12月6日）

[執筆]

- ・「^{中世後期}松戸市関連文書一覧一展示リニューアルの前提として」『松戸市立博物館紀要』32号（令和7年3月31日）

[所属学会]

千葉城郭研究会、千葉歴史学会、歴史学研究会、地方史研究協議会

青木 俊也 専門分野：民俗学
研究テーマ「常盤平団地生活史の研究」「戦後生活史展示の研究」

[年間活動]

- ・博学連携展示「松戸探検 100年前からのくらしのうつりかわり」担当(令和7年1月15日～5月18日)
- ・講演会講師 歴史を語る第1回「常盤平団地への計画と生活史からのアプローチ」志岐祐一氏と共に担当（令和6年9月15日）
- ・体験教室講師「親も楽しむ 米づくりと展示づくりー小学生学芸員になろうー」（友の会共催）（令和6年4月27日～令和7年1月26日）
- ・体験教室講師「裂き織りをしてみませんか」（友の会共催）（令和7年2月6日、7日）

[外部機関等協力活動]

- ・講師派遣 常盤平第一小学校「森の住宅都市 常盤平団地の生活史1960-2022」（令和6年8月21日）
- ・講師派遣 専修大学松戸中学校「常盤平団地への生活史からのアプローチ」（令和6年10月26日）
- ・神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科非常勤講師「博物館歴史資料学特論」（令和6年9月1日～令和7年3月31日）

[所属学会]

日本民俗学会、群馬歴史民俗研究会

6 資料の収集と利用

(1) 資料の収集

一次資料収集

受贈

・高橋 清様	「高橋市太郎関係資料」	136点
・新田 隆文様	「NHKのだ自慢（松戸市）関係資料」	6点
・中道 和也様	「小金下町会活動およびコロナウイルス 対応等記録写真」	1点
・土屋 和久様	「土屋和久家文書」	11点
・伊原 清良様	「法被（屋号「栄吉船」）」	1点
・七右衛門新田町会様	「七右衛門新田区有文書」	1,314点



「法被」



「東京府買出連合会(鮮魚)徽章」
「東京北部連合会(桜に魚)徽章」
(高橋市太郎関係資料)

寄託

・上本郷獅子講中様	「上本郷獅子講中史料」	528点
	「上本郷獅子舞 獅子頭羽根飾」	3点
・石井 正人様	「石井包人家文書」	1,227点
・塚田 輝夫様	「旧秋山村渡辺家文書（近世地主関係）」	42点
・高城 安夫様	「北条家直印判状」	1点
・松戸 雅男様	「錦果園関係資料」	55点
・城光寺 信顕様	「庚申板碑」	1点



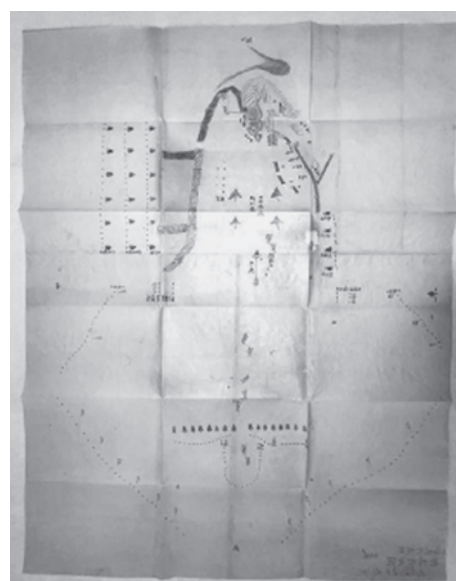
「実相当流修行主本目録」
(高橋市太郎関係資料)

購入

・作者不明	「小金野御鹿狩略図」	1点
・作者不明	「小金原御鹿狩御陣所略図」	1点



「小金原御鹿狩御陣所略図」



「小金野御鹿狩略図」

二次資料収集

受贈図書 146冊（団体7冊、個人139冊）

購入図書 59冊

交換図書 551冊

図書交換機関等 347カ所

購入逐次刊行物 34タイトル

受贈及び交換逐次刊行物 176タイトル

(2) 博物館資料の貸し出し（令和6年4月1日～令和7年3月31日）

No.	貸出期間	借用者	利用形態	目的	貸出資料・点数
1	令和6年7月31日 ～令和6年10月11日	八潮市立資料館	資料貸出	八潮市立資料館 第51回企画展「あの世－葬送儀礼と死生観－」に展示するため	天蓋、新盆の白提灯 計2点
2	令和6年8月29日 ～令和7年3月31日	千葉市立加曽利貝塚博物館	資料貸出	令和6年度企画展にて展示するため。	中峠遺跡、子和清水遺跡出土遺物 計5点
3	令和6年12月25日 ～令和7年3月31日	千葉市埋蔵文化財調査センター	資料貸出	特別展「貝と人」にて展示するため。	中峠遺跡出土遺物 1点

(3) 博物館資料の特別利用

No.	利用日	利用者	利用形態	目的	利用資料・点数
1	令和6年5月20日	個人	写真利用	調査	「下谷・谷津・台の位置関係」の図、「江戸時代の村」の図
2	令和6年4月19日	松戸市立博物館友の会	写真複写	松戸市立博物館友の会古文書部会テキスト作成のため	二ツ木湯浅家文書-5
3	令和6年5月10日	東京新聞	写真利用	二十世紀梨の里帰りの記事、関連写真として掲載	松戸覚之助氏の写真
4	令和6年6月4日	松戸市	写真利用	機関紙「RIVERFRONT」に寄稿する際に写真を掲載するため	かわら版 御立場、松戸宿図絵
5	令和7年3月28日	松伏町教育委員会	写真利用	松伏町史編事業に伴う刊行物『松伏町史 通史編』及び『松伏町史 通史編 ダイジェスト版』（仮称）に掲載するため	松戸市文化財調査報告書第11集『子和清水貝塚遺物図版編2』図版193の876-1写真
6	令和6年6月25日	個人	撮影・調査	調査	子和清水遺跡遺物7点、中峠遺跡遺物1点
7	令和6年6月14日	株式会社黄山美術社	調査	調査	ガンダーラ関連作品39点
8	令和6年7月11日	有限会社文明舎	写真利用	トヨタカラー千葉が発行する情報誌「C.C.Road」に掲載するため	常盤平団地の誕生
9	令和6年7月9日	千葉市立加曽利貝塚博物館	撮影・調査	令和6年度企画展示に係る借用資料の事前調査のため	中峠遺跡遺物2点、子和清水遺跡遺物4点、根本内遺跡遺物1点
10	令和6年10月26日	君津市立久留里城址資料館	写真利用	企画展「関東無双ノ大将 里見義堯－久留里城を拠点とした戦国の雄－」においてパネル展示および図録に掲載するため	北条氏康書状
11	令和6年7月31日	八潮市教育委員会	写真利用	第51回企画展「あの世－葬送儀礼と死生観－」のパンフレットへの掲載のため	天蓋、新盆の白提灯
12	令和6年10月8日	千葉市立加曽利貝塚博物館	写真利用	令和6年度企画展示リーフレットに掲載するため	中峠遺跡遺物3点、子和清水遺跡遺物2点

No.	利用日	利用者	利用形態	目的	利用資料・点数
13	令和6年9月3日	戎光祥出版株式会社	写真利用	月刊『歴史研究』725号に掲載のため	小金城金杉口の畝状空堀 1点、根本内城の障子堀 3点
14	令和6年9月2日	NHKプロジェクトセンター	写真利用	NHK午後LIVEニュースーン (9月2日放送分)中継コーナーで 使用	二十世紀梨の原木
15	令和7年4月1日	株式会社大修館書店	写真利用	高校国語副教材近現代文学編にお いて文学作品の背景を知る為の資 料として使用	常盤平団地内部画像
16	令和6年9月21日	松戸市立小金北小学校	映像使用	教育・研究の資料とするため	三匹獅子舞 概要編
17	令和7年3月7日	市川市	写真利用	『市川市史 歴史編Ⅱ—ムラとマチ —(通巻2)』第3章第3節に使用 のため	小野遺跡出土遺物2点、 坂花遺跡遺物2点
18	令和6年11月2日	株式会社テックビジョン	写真利用	ケーブルネット296番組「女子旅ち ば銘酒探訪」第32話 松戸市にある 合同酒精の工場見学の回、冒頭の 松戸市紹介で使用	二十世紀梨の展示の写真 4点
19	令和6年11月21日	有限会社ちばマガジン	写真利用	月間ぐるっと千葉12月号への掲載 で使用	常盤平団地展示の写真2 点
20	令和6年11月20日	個人	写真利用	調査	イモガイ製垂飾
21	令和7年1月1日	個人	写真利用	邦楽月刊誌『邦楽ジャーナル』連載 の「全国邦楽ぶら散歩」39に掲載	虚無僧展示の写真3点
22	令和6年12月20日	千葉大学環境リモートセン シング研究センター	閲覧	古気候学に関する研究につき、資 料中の日付や天候、移動の記載等 について翻刻し、データ分析に用 いる。	大熊義光家文書3点
23	令和7年1月10日	長野県埋蔵文化財センター	調査	飯田市川原遺跡出土資料の研究の ため	行人台遺跡遺物19点
24	令和7年2月4日	高崎市教育委員会	調査	令和7年度高崎市観音塚考古資料 館企画展に向けた調査研究のため	行人台遺跡遺物6点
25	令和7年1月30日	株式会社 テレビ朝日	写真利用	スーパーJチャンネル「Jの追跡」番 組内にて資料映像として使用	揚州周延「千代田之御表 小金原御牧狩之図」
26	令和7年3月8日	株式会社 日企	撮影	日本テレビで放送されているテレ ビ番組「キントレ」の撮影で使用する ため。	「人類の登場」「狩りと採 集のムラ」展示資料、竪穴 住居
27	令和7年2月25日	株式会社交通新聞社	写真利用	『東京時刻表 2025年首都圏大改正 号』巻頭特別企画で使用	博物館外観、常盤平団地 リビング
28	令和7年4月1日	個人	写真利用	『江戸時代の松戸河岸と鮮魚輸送』 への掲載のため	展示図録『川の道 江戸 川』7点、『改訂版 常設 展示図録』1点、錦絵「下 総小金原」1点
29	令和7年3月～	株式会社ココロマチ	写真利用	松戸市八ヶ崎とその周辺を紹介す るエリアガイド(Web媒体)での掲 載	博物館外観、総合展示室 2点、復元竪穴住居

(4) 資料の燻蒸等

[展示室燻蒸]

殺虫・殺卵・殺菌を目的とする密閉燻蒸を行った。

期 間：令和6年6月17日(月)～6月24日(月)

対 象：総合展示室、主題展示室、企画展示室

委 託 先：関東港業(株)

使用薬剤：酸化プロピレン(商品名アルプ)

[燻蒸庫燻蒸]

殺虫・殺卵を目的とする燻蒸を2回行った。

期 間：①令和6年9月18日(水)～9月26日(木)

②令和7年2月3日(月)～2月17日(月)

対 象：①館蔵資料展関連資料

②民俗資料・歴史資料、寄託資料

委 託 先：関東港業(株)

使用薬剤：①二酸化炭素(炭酸ガス)

②二酸化炭素(炭酸ガス)

[博学連携展示資料燻蒸]

殺虫・殺卵を目的とする燻蒸を行った。

期 間：令和6年4月1日(月)～4月16日(火)

対 象：博学連携展示資料

委 託 先：関東港業(株)

使用薬剤：二酸化炭素(炭酸ガス)

[野外展示・復元竪穴住居]

殺虫を目的とする駆除作業を行った。

期 間：令和6年6月20日(木)～6月21日(金)

対 象：復元竪穴住居3棟

委 託 先：関東港業(株)

使用薬剤：フェノトリン炭酸製剤(商品名ミクランS)

7 令和6年度 企画展・館蔵資料展アンケート結果

■ 調査方法と設問内容

アンケート用紙を企画展示室前ロビーに置き、利用者の任意に任せた調査票自己記入式で行った。

各アンケートに共通する設問は、回答者の年齢、住所、来館回数、博物館に関する情報をどうやって入手したか、交通手段、職業、行動グループ、展示についての印象・感想である。

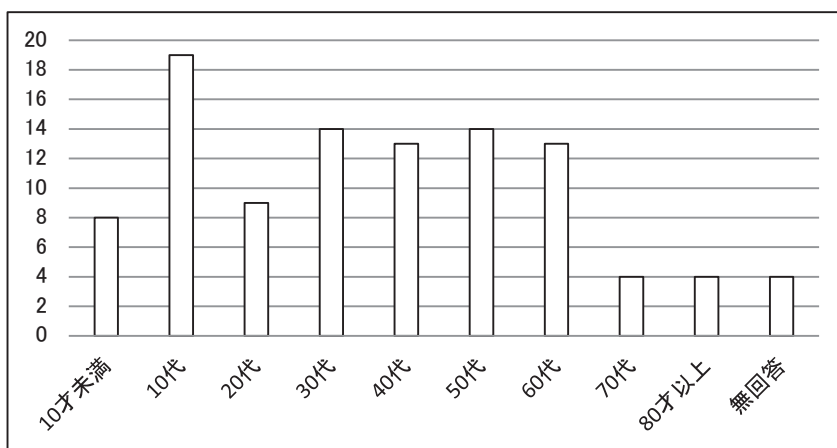
以下に、回答者の傾向を端的に示した“年齢”、“来館回数”及び“満足度”という計3項目の結果をとりあげる。

(1) 館蔵資料展「たてたてあなあな 一豎穴建物の世界」

- 観覧者数 4,615人
- アンケート有効回答者数 102件(回答率 2.2%)
- 調査期間 令和6年4月27日(土)～6月2日(日)

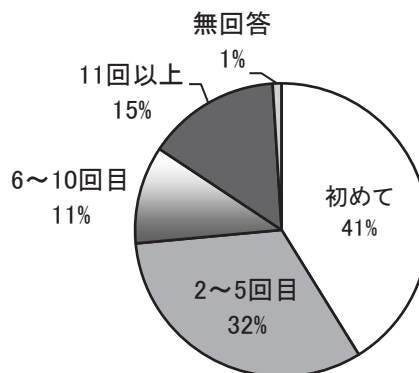
■ 回答者の年齢(件)

	計
10才未満	8
10代	19
20代	9
30代	14
40代	13
50代	14
60代	13
70代	4
80才以上	4
無回答	4
計	102



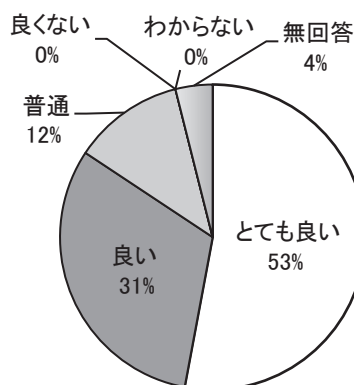
■ 来館回数(件)

初めて	42
2～5回目	33
6～10回目	11
11回以上	15
無回答	1
計	102



■ 回答者の満足度(件)

展示について	
とても良い	54
良い	32
普通	12
良くない	0
わからない	0
無回答	4
計	102

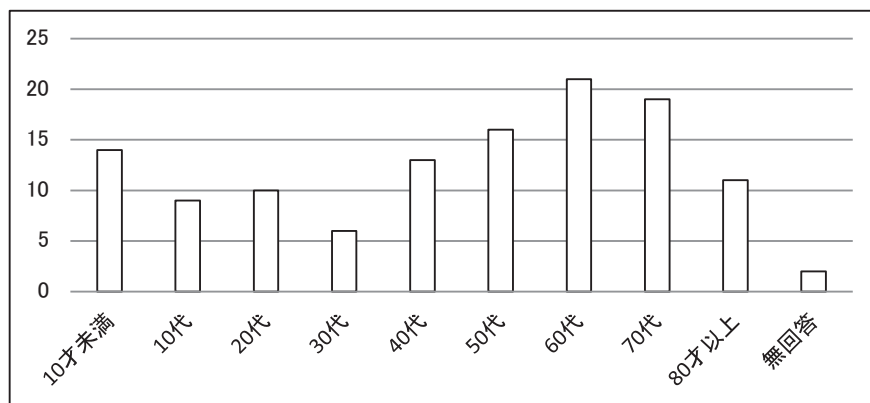


(2) 館蔵資料展「古文書からさぐる大谷口の村」

- 観覧者数 3,659人
- アンケート有効回答者数 121件(回答率 3.3%)
- 調査期間 令和6年7月13日(土)～8月25日(日)

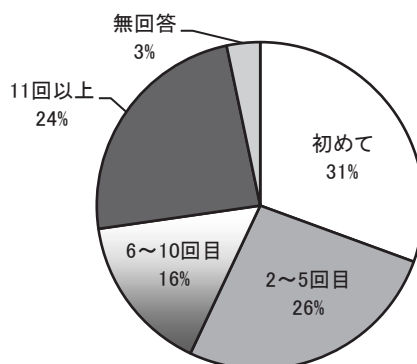
■ 回答者の年齢(件)

	計
10才未満	14
10代	9
20代	10
30代	6
40代	13
50代	16
60代	21
70代	19
80才以上	11
無回答	2
計	121



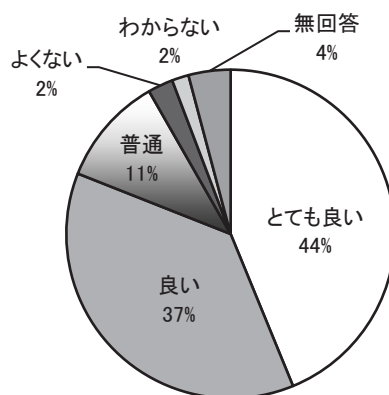
■ 来館回数(件)

初めて	37
2～5回目	32
6～10回目	19
11回以上	29
無回答	4
計	121



■ 回答者の満足度(件)

展示について	
とても良い	53
良い	45
普通	13
よくない	3
わからない	2
無回答	5
計	121

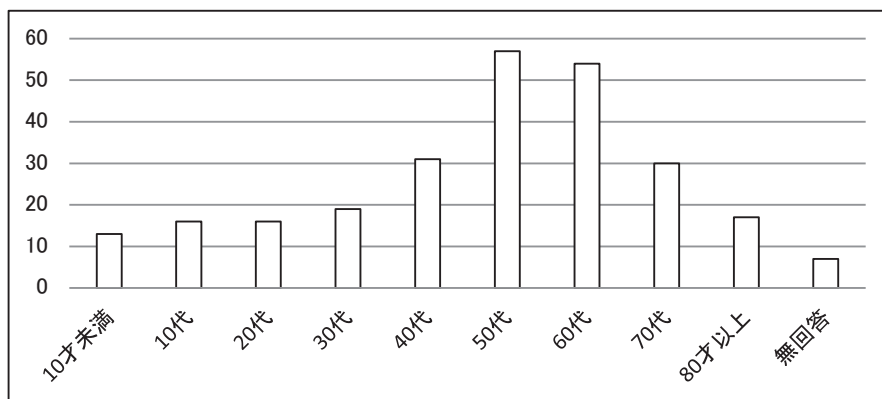


(3) 企画展「異形土器 縄文時代の不思議なうつわ」

- 観覧者数 5,866人
- アンケート有効回答者数 260件(回答率 4.4%)
- 調査期間 令和6年9月14日(土)～11月4日(月・休)

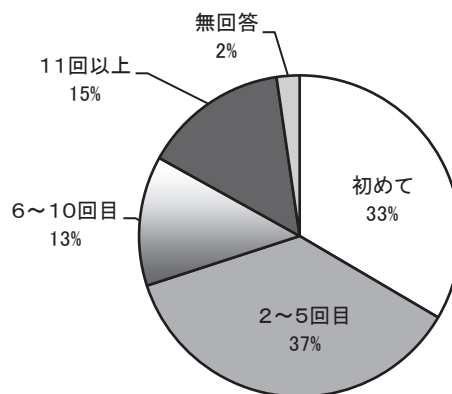
■ 回答者の年齢(件)

	計
10才未満	13
10代	16
20代	16
30代	19
40代	31
50代	57
60代	54
70代	30
80才以上	17
無回答	7
計	260



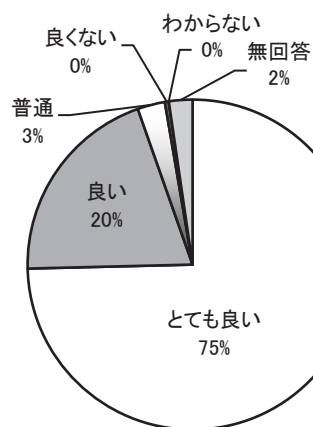
■ 来館回数(件)

初めて	87
2～5回目	95
6～10回目	34
11回以上	38
無回答	6
計	260



■ 回答者の満足度(件)

展示について	
とても良い	194
良い	52
普通	7
良くない	1
わからない	0
無回答	6
計	260

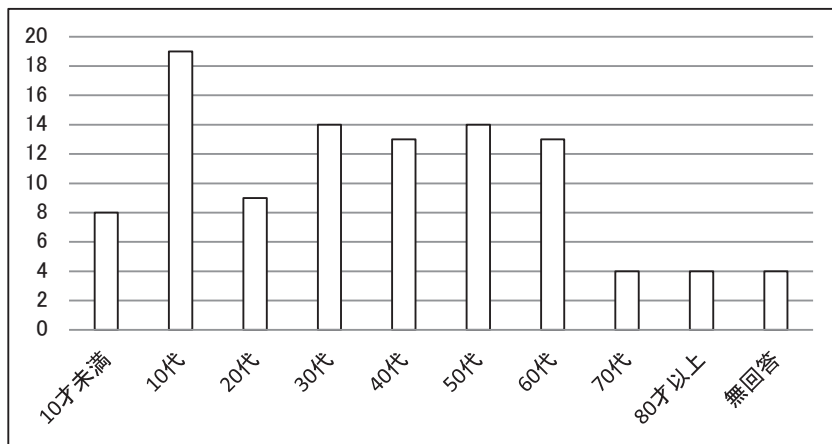


(4) 博学連携展示「松戸探検 100年前からのくらしのうつりかわり」

- 観覧者数 11,527人
- アンケート有効回答者数 162件(回答率 2.3%)
- 調査期間 令和7年1月15日(水)～5月18日(日)

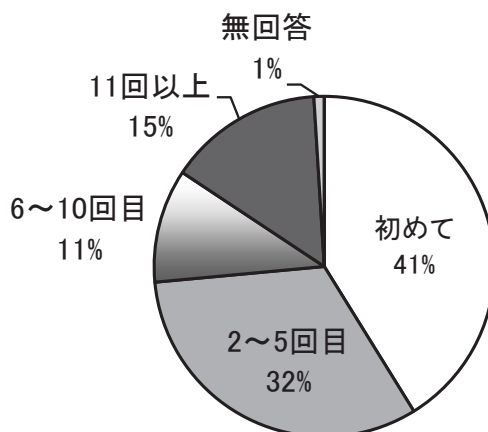
■ 回答者の年齢(件)

	計
10才未満	51
10代	25
20代	12
30代	8
40代	11
50代	14
60代	22
70代	11
80才以上	6
無回答	2
計	162



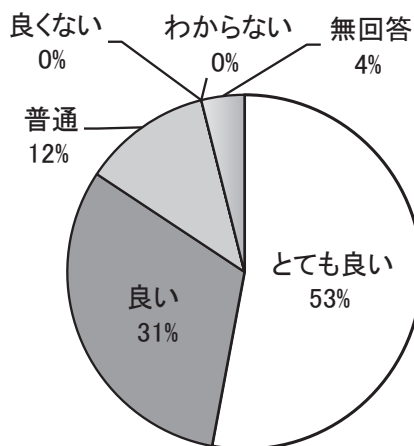
■ 来館回数(件)

初めて	70
2～5回目	54
6～10回目	17
11回以上	18
無回答	3
計	162



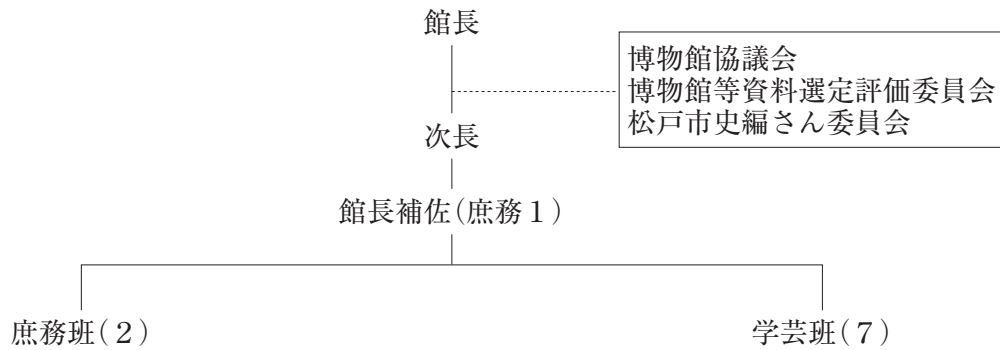
■ 回答者の満足度(件)

展示について	
とても良い	118
良い	38
普通	0
良くない	0
わからない	1
無回答	5
計	162



IV 組織と運営

1 組織



2 歳出予算

(単位 千円)

事業 科目	予算額	博物館管理運営事業					
		博物館協議会委員	博物館等資料 選定評価委員会委員	施設関係	展示	学習支援	歴史資料収集調査
報酬	404	204	200	0	0	0	0
報償	1,275	0	0	0	675	350	250
旅費	630	0	0	0	500	0	130
需用	37,216	0	0	28,300	4,510	1,428	2,978
役務	2,779	0	0	874	1,404	235	266
委託	116,538	0	0	89,771	17,778	747	8,242
使用	5,963	0	0	3,264	1,457	612	630
工事	0	0	0	0	0	0	0
原材	20	0	0	20	0	0	0
備品	5,461	0	0	4,000	396	115	950
負担	89	0	0	0	0	0	89
計	170,375	204	200	126,229	26,720	3,487	13,535

3 事務事業

事務事業名	事務事業の主な内容
博物館協議会委員	博物館の運営に関し館長の諮問に応じるとともに、館長に対して意見を述べる。 博物館協議会において、適切な事業方針を審議する。
博物館等資料選定 評価委員会委員	松戸市立博物館及び松戸市戸定歴史館が行う資料の収集に関し、学識経験を有する者の意見等を求める。
施設関係	施設の維持管理を目的としており、館利用者が安全で快適な環境で学習できるよう施設を整備する。
展示	総合展示・主題展示・野外展示・映像展示で構成し、市民に郷土と歴史と文化への理解を深めてもらう。また、年4回程度、企画展、資料展、学習資料展を実施する。
学習支援	歴史講座・体験講座・講演会等の開催、デジタル情報の提供、学校教育との連携などを図り、松戸の歴史文化等にかかわる最新情報を様々な媒体を通して提供する。
歴史資料収集調査	松戸を中心とする歴史・文化・自然史等に関する資料の収集・保存及び調査研究を行い市民の共有の資産として後世に伝える。
市史編さん	市民に郷土の歴史を知ってもらい、郷土に対する誇りを育てるため、松戸市史編さんを行う。 平成10年度に市長から諮問のあった『松戸市史 上巻』の改訂については、平成26年度に『松戸市史 上巻(改訂版)』の刊行を行ったので、現在は、市長からの諮問案件はない。

4 各種委員会等

(1) 博物館協議会

委員名簿

(令和7年3月31日)

区分	氏名	役職等
1号委員 学校関係者	藤崎 裕二	松戸市立常盤平第三小学校校長
	大西 一樹	松戸市立柿ノ木台小学校教諭
2号委員 社会教育関係者	岡田 啓時	松戸市立博物館友の会相談役
	谷鹿 栄一	千葉県立房総のむら主任上席研究員
3号委員 家庭教育の向上に 資する活動を行 う者	竹内やよい	松戸市PTA連絡協議会顧問
	頓田絵里子	松戸市子ども会 育成連絡協議会役員
4号委員 学識経験者	佐藤 孝之	東京大学名誉教授(近世史)
	小島 孝夫	成城大学教授(民俗学)
	日高 慎	東京学芸大学教授(考古学)
	百原 新	千葉大学大学院教授(古生態学)

任期2年 令和7年9月30日まで

第1回協議会

令和6年7月27日

会場：松戸市立博物館実習室

議題：(1)松戸市立博物館展示リニューアル
懇談会・展示リニューアル検討会の報
告について

議題：(2)館蔵資料展「古文書からさぐる大谷口
の村」内覧

第2回協議会

令和6年12月8日

会場：松戸市立博物館実習室

議題：(1)松戸市立博物館リニューアル基本構想・
基本計画における外部評価について

議題：(2)常設展示内覧

第3回協議会

令和7年3月9日

会場：松戸市立博物館実習室

議題：(1)松戸市立博物館リニューアル基本構想・
基本計画の事業評価について

議題：(2)博学連携展示「松戸探検 100年前から
のくらしのうつりかわり」内覧

(2) 博物館等資料選定評価委員会

委員名簿

(令和7年3月31日)

氏名	専門	役職等
安蒜 政雄	考古	明治大学名誉教授
岡塚 章子	写真	江戸東京博物館 都市歴史研究室長
久保田昌希	歴史	駒澤大学名誉教授
佐野 賢治	民俗	神奈川大学名誉教授
小泉 雅弘	歴史	駒澤大学教授

任期2年 令和7年3月31日まで

第1回資料選定評価委員会

令和6年8月20日

会場：戸定が丘歴史公園内 松雲亭

議題：(1)委員長・副委員長の選出について

議題：(2)「津山松平分家資料」の選定評価について

(3) 松戸市史編さん委員会

※「3 事務業務」にて記載のとおり、平成10年度に市長からの諮問のあった事業については、平成26年度で終了したので、現在市長からの諮問はない。

5 博物館利用者数の統計

利用者総計

利用者の内訳は以下の通りである。

常設展示観覧者数（令和6年4月1日～令和7年3月31日）

月	開館日数	有 料 観 覧 者 数 (人)					無 料 観 覧 者 数 (人)								観覧者 総計
		個 人		団 体		有料 観覧者 計	学習 活動	身体 障害者	70歳 以上	中学生 以下	視察等	友の会	無料 開放日	無料 観覧者 数	
		一 般	高校生 大学生	一 般	高校生 大学生										
4	24	808	24	0	0	832	23	71	24	377	35	10	463	1,003	1,835
5	26	876	45	0	0	921	288	45	40	309	27	9	765	1,483	2,404
6	19	595	73	0	0	668	416	71	36	252	16	3	328	1,122	1,790
7	26	768	55	0	0	823	171	79	45	286	12	8	0	601	1,424
8	26	901	51	0	0	952	123	111	37	468	31	10	0	780	1,732
9	25	1,045	36	0	0	1,081	0	113	67	360	70	2	0	612	1,693
10	27	1,165	50	0	0	1,215	355	156	157	317	279	6	0	1,270	2,485
11	25	797	37	20	0	854	38	92	78	244	124	7	877	1,460	2,314
12	22	465	32	24	0	521	6	65	24	174	59	8	0	336	857
1	22	491	20	28	0	539	555	48	31	210	91	4	0	939	1,478
2	23	755	23	0	0	778	1,088	81	45	388	11	4	0	1,617	2,395
3	25	817	54	0	0	871	394	76	52	424	9	1	0	956	1,827
合計	290	9,483	500	72	0	10,055	3,457	1,008	636	3,809	764	72	2,433	12,179	22,234

企画展等観覧者数

展覧会	開催期間	開館 日数 (日)	有 料 観 覧 者 数 (人)				無 料 観 覧 者 数 (人)								観覧者 総計	
			個人		団体		有料 観覧者 計	学習 活動	身体 障害者	70歳 以上	中学生 以上	視察等	友の会	無料 開放日		無料 観覧者 数
			一般	高校生 大学生	一般	高校生 大学生										
館蔵資料展 「たてたてあなあな—堅穴建物の世界」	R6.4.27～ R6.6.2	31													4,615	4,615
館蔵資料展 「古文書からさぐる大谷口の村」	R6.7.13～ R6.8.25	37													3,659	3,659
企画展 「異形土器 縄文時代の不思議なうつわ」	R6.9.14～ R6.11.4	45	2,727	91			2,818	356	301	273	653	588	0	877	3,048	5,866
博学連携展示 「松戸探検 100年前からのくらしのうつりかり」	R7.1.15～ R7.5.18	62													7,032 ※ 1	7,032
小計																21,172
第 9 回博物館アワード作品展	R6.11.23～ R6.12.8	14													1,194	1,194
計																22,366

※1 観覧者数は令和7年3月31日までの実績

博物館無料ゾーン利用者

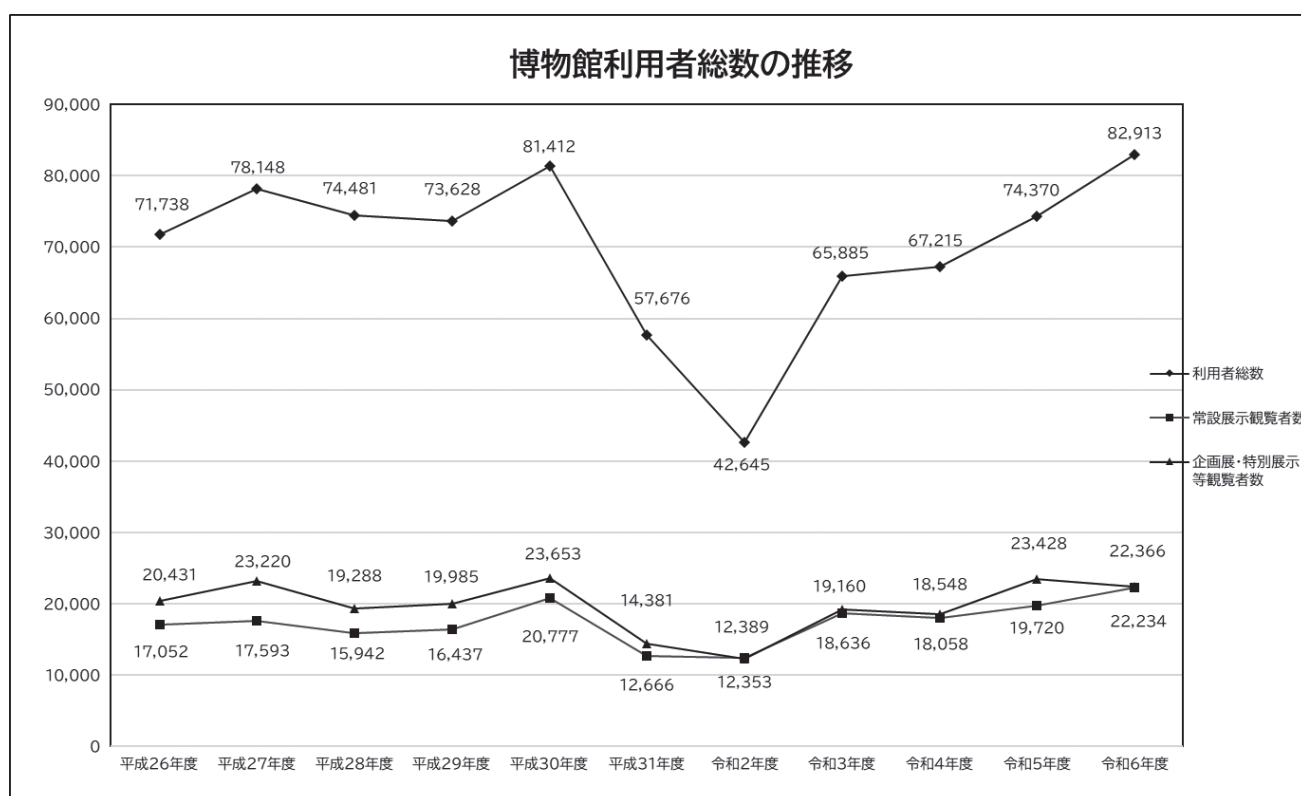
博物館施設名	プレイルーム	映像展示	野外展示	講座・講演会参加者	合計
日数(日)	290	289	281	—	—
利用者総(人)	13,312	1,027	19,170	4,804	38,313

博物館利用者総計

	令和5年度	令和6年度	前年度比較
常設展示観覧者数	19,720	22,234	2,514
企画展・特別展示等観覧者数	23,428	22,366	△ 1,062
博物館無料ゾーン利用者	31,222	38,313	7,091
利用者総計	74,370	82,913	8,543

博物館利用者総数の推移

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
利用者総数	71,738	78,148	74,481	73,628	81,412	57,676	42,645	65,885	67,215	74,370	82,913
常設展示観覧者数	17,052	17,593	15,942	16,437	20,777	12,666	12,389	18,636	18,058	19,720	22,234
企画展・特別展示等観覧者数	20,431	23,220	19,288	19,985	23,653	14,381	12,353	19,160	18,548	23,428	22,366
うち) 企画展観覧者数	2,641	3,809	2,917	4,153	8,959	5,109	5,109	6,216	2,922	8,489	5,866
その他展示観覧者数	17,790	19,411	16,371	15,832	14,694	9,272	9,682	12,944	15,626	14,939	16,500
講座・講演会等参加者数	3,291	3,052	5,999	6,910	6,554	2,598	399	861	1,886	2,512	4,804



6 来訪者

令和6年

4月18日	ウキウキする地域生活情報誌「UKI UKI」取材
4月18日	J:COM 取材
4月29日	聖徳大学 見学
5月10日	千葉テレビ放送株式会社 取材
5月10日	J:COM 取材
5月16日	読売新聞 取材
6月11日	朝日新聞 取材
7月14日	第63回サマーセミナー実行委員会 見学
7月20日	松戸経済新聞 取材
11月16日	千葉大学 取材

令和7年

1月13日	J:COM 取材
1月21日	株式会社 日企 取材
1月21日	東葛飾地区社会教育連絡協議会 見学
1月22日	千葉テレビ放送株式会社 取材
2月22日	千葉大学 見学
2月28日	読売新聞 取材
3月13日	読売新聞 取材

V 条 例 ・ 規 則

松戸市立博物館条例

(平成4年9月24日 松戸市条例第28号)

(趣旨)

第1条 この条例は、松戸市立博物館(以下「博物館」という。)の設置及び管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第2条 本市は、市民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、博物館を次のとおり設置する。

名 称	位 置
松戸市立博物館	松戸市千駄堀671番地

(管理)

第3条 博物館は、松戸市教育委員会(以下「教育委員会」という。)が管理する。

(職員)

第4条 博物館に館長、学芸員その他必要な職員を置く。

(事業)

第5条 博物館は、次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) 歴史、考古、民俗、自然史等に関する実物、標本、模写、模型、文献、図表、フィルム等の資料(以下「博物館資料」という。)を収集し、保管し、及び展示すること。
- (2) 博物館資料に係る電磁的記録(電子的方式、磁気的方式その他人の知覚によっては認識することができない方式で作られた記録をいう。)を作成し、公開すること。
- (3) 博物館資料に関する調査研究を行うこと。
- (4) 博物館資料に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等を作成し、及び頒布すること。
- (5) 博物館資料に関する講演会、講習会、研究会等を開催すること。
- (6) 博物館資料の利用に関し必要な説明、助言及び指導を行うこと。
- (7) 他の博物館、美術館、文書館、図書館、学校その他学術又は文化に関する施設との相互協力に関すること。
- (8) その他教育委員会が必要と認める事業

(観覧料)

第6条 博物館に展示されている博物館資料を観覧しようとする者は、別表に定める観覧料を納入しなければならない。

2 教育委員会は、特に必要と認める場合におい

ては、前項の観覧料を免除することができる。

3 既納の観覧料は、返還しない。ただし、教育委員会が特別の理由があると認めるときは、返還することができる。

(入館の制限及び退館)

第7条 教育委員会は、次の各号の一に該当すると認めるときは、入館を禁止し、又は退館させることができる。

- (1) 公の秩序又は善良な風俗を乱すおそれのあるとき。
- (2) 博物館の施設、展示品等を損壊するおそれのあるとき。
- (3) その他博物館の管理上支障があるとき。

(博物館協議会)

第8条 博物館法(昭和26年法律第285号)第23条第1項の規定により、博物館に松戸市立博物館協議会(以下「協議会」という。)を置く。

2 協議会は、委員10人以内で組織し、次に掲げる者のうちから、教育委員会が任命する。

- (1) 学校教育関係者
- (2) 社会教育関係者
- (3) 家庭教育の向上に資する活動を行う者
- (4) 学識経験者

3 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 前2項に定めるもののほか、協議会の組織及び運営に関し必要な事項は、教育委員会が規則で定める。

(委任)

第9条 この条例に定めるもののほか、博物館の管理に関し必要な事項は、教育委員会が規則で定める。

附 則

この条例は、公布の日から起算して8か月を超えない範囲内において教育委員会が規則で定める日から施行する。

(平成5年3月松戸市教育委員会規則第2号で、同5年4月29日から施行)

附 則(平成10年3月27日松戸市条例第11号)

この条例は、平成10年4月1日から施行する。

附 則(平成13年6月21日松戸市条例第23号)

この条例は、平成13年10月1日から施行する。

附 則(平成23年3月30日松戸市条例第11号)

この条例は、平成23年4月1日から施行する。

附 則(平成24年3月29日松戸市条例第7号)

この条例は、平成24年4月1日から施行する。

附 則(平成31年3月26日松戸市条例第18号抄)

(施行期日)

1 この条例は、平成31年10月1日から施行する。

附 則(令和5年3月30日松戸市条例第6号)

この条例は、令和5年4月1日から施行する。

別表(第6条関係)

区 分		観覧料(1人1回につき)	
		個人	団体(20人以上)
常設展示	一般	310円	250円
	高校生・大学生	150円	100円
	中学生以下	無料	無料
企画・特別展示	次の各号に掲げる額を超えない範囲内において、その都度展示内容に応じ、教育委員会が定める。ただし、中学生以下の者に係る観覧料にあっては、無料とする。		
	(1) 一 般	1,200円 (共通観覧料については、1,440円)	
	(2) 高校生・大学生	600円 (共通観覧料については、700円)	

松戸市立博物館管理運営規則

(平成5年3月26日松戸市教育委員会規則第3号)

(趣旨)

第1条 この規則は、松戸市立博物館条例(平成4年松戸市条例第28号。以下「条例」という。)第9条の規定により、松戸市立博物館(以下「博物館」という。)の管理運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(開館時間)

第2条 博物館の開館時間は、午前9時30分から午後5時までとする。ただし、博物館への入館時間は、午後4時30分までとする。

2 松戸市教育委員会(以下「教育委員会」という。)は、必要と認めるときは、前項に規定する開館時間及び入館時間を変更することができる。

(休館日)

第3条 博物館の休館日は、次のとおりとする。ただし、教育委員会が必要と認めるときは、臨時に休館し、又は休館日を変更することができる。

(1) 月曜日

(2) 1月1日から4日まで及び12月28日から31日まで

(3) 館内整理日(毎月第4金曜日とする。ただし、その日が国民の祝日に関する法律(昭和23

年法律第178号)に規定する休日(以下「祝日法による休日」という。)である場合は、この限りでない。)

2 前項第1号の規定にかかわらず、同号に規定する日が祝日法による休日に当たるときは、その日後において、その日に最も近い祝日法による休日でない日を休館日とする。

(観覧券の交付)

第4条 条例第6条第1項の規定により、所定の観覧料を徴収したときは、観覧券(第1号様式)を交付するものとする。

(観覧料の免除等)

第5条 条例第6条第2項の規定により、観覧料を免除することができる場合は、次に掲げるとおりとする。

(1) 高校生、大学生及び大学生以下の者を引率する者が教育課程に基づく学習活動として観覧するとき。

(2) 博物館が開催する講演会、講習会、研究会等に参加する者が観覧するとき。

(3) 身体障害者手帳、療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者及びその介護人(手帳の交付を受けている者1人につき1人に限る。)が観覧するとき。

(4) 市内に居住する70才以上の者が観覧するとき。

(5) 県民の日を定める条例(昭和59年千葉県条例第3号)第2条に定める日に観覧するとき。

(6) その他教育委員会が必要と認めたとき。

2 観覧料の免除を受けようとする者で前項第1号に該当するものは、あらかじめ博物館観覧料免除申請書(第2号様式)を教育委員会に提出し、承認を受けなければならない。

(観覧料の返還)

第6条 条例第6条第3項ただし書の規定により、観覧料の返還を受けようとする者は、博物館観覧料返還申請書(第3号様式)を教育委員会に提出し、承認を受けなければならない。

(資料の貸出し)

第7条 教育委員会は、次の各号に掲げる者に対し、博物館業務に支障がないと認めるときは、博物館で所蔵する資料を貸し出すことができる。

(1) 国立博物館、博物館法(昭和26年法律第285号)第2条第1項の規定による博物館及び同法第31条第1項の規定により博物館に相当する施設として指定を受けた施設の設置者

(2) 前号に掲げる者のほか、教育委員会において特に認める者

2 博物館資料の貸出しを受けようとする者は、

博物館資料貸出申請書(第4号様式)を教育委員会に提出し、博物館資料貸出許可書(第5号様式)の交付を受けなければならない。

- 3 博物館資料の貸出期間は、60日以内とする。ただし、教育委員会が必要があると認めるときは、これを延長することができる。

(文献等の閲覧等)

第8条 教育委員会は、必要があると認めるときは、博物館で所蔵する資料のうち文書及び図書(以下「文献等」という。)の閲覧又は複写(文書については、マイクロフィルムに保存されているものに限る。)をさせることができる。

- 2 文献等を閲覧しようとする者は、博物館文献等閲覧許可申請書(第6号様式)を教育委員会に提出し、博物館文献等閲覧許可証(第7号様式)の交付を受けなければならない。

- 3 博物館文献等閲覧許可証の有効期間は、交付の日から1年とする。

- 4 文献等の複写を希望する者は、博物館文献等複写申請書(第8号様式)により教育委員会の許可を受けなければならない。

(閲覧又は複写の制限)

第9条 教育委員会は、次の各号に掲げる文献等の閲覧又は複写を許可しないものとする。

- (1) 未公開及び未整理のもの
- (2) 保存に影響を及ぼすおそれがあると認められるもの
- (3) 寄託された文献等で寄託者の同意を得ていないもの
- (4) その他教育委員会が不相当と認めたもの

(入館者の遵守事項)

第10条 博物館の入館者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- (1) 施設、設備、展示資料等を汚損し、又は損傷しないこと。
- (2) 許可なく展示資料の写真撮影、模写等の行為を行わないこと。
- (3) 所定の場所以外において喫煙し、飲食し、又は火気を使用しないこと。
- (4) 無断で広告その他これに類するものを掲示又は配布しないこと。
- (5) 他人に危害を加え、又は迷惑となる行為をしないこと。
- (6) 前各号に定めるもののほか、教育委員会の指示に従うこと。

(所掌事務)

第11条 博物館の所掌事務は、別表のとおりとする。

(職務)

第12条 館長は、博物館の事務を掌理し、職員を指揮監督する。

- 2 次長は、館長を補佐し、所属の事務を統轄する。

- 3 館長補佐は、館長及び次長を補佐する。

- 4 その他の職にある者は、上司の命を受け、担任事務を処理する。

(博物館協議会の会長等)

第13条 条例第8条第1項に規定する博物館協議会(以下「協議会」という。)に会長及び副会長を置き、委員の互選によりこれを定める。

- 2 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

- 3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(博物館協議会の会議等)

第14条 協議会の会議は、会長が招集し、議長となる。

- 2 協議会は、委員の過半数の出席がなければ、会議を開くことができない。

- 3 会議の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

- 4 協議会は、特に必要があると認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求め、意見又は説明を聴くことができる。

- 5 協議会の会議は、公開を原則とする。ただし、協議会において会議を公開しないと認めたときは、この限りでない。

- 6 協議会の庶務は、文化財保存活用課において処理する。

- 7 前各項に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

(委任)

第15条 この規則に定めるもののほか必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、平成5年4月29日から施行する。

附 則(平成6年3月31日松戸市教育委員会規則第9号)

この規則は、平成6年4月1日から施行する。

附 則(平成6年3月31日松戸市教育委員会規則第10号)

この規則は、平成6年4月1日から施行する。

附 則(平成7年3月2日松戸市教育委員会規則第5号)

この規則中、第5条第1項の改正規定は平成7年4月1日から、第11条に1号を加える改正規定は公布の日から施行する。

附 則(平成8年3月14日松戸市教育委員会規則第3号)

この規則は、平成8年4月1日から施行する。

附 則(平成10年3月26日松戸市教育委員会規則第9号)
この規則は、平成10年4月1日から施行する。

附 則(平成13年7月11日松戸市教育委員会規則第12号)
この規則は、平成13年10月1日から施行する。

附 則(平成14年3月4日松戸市教育委員会規則第1号)
この規則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則(平成20年3月31日松戸市教育委員会規則第8号)
この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則(平成23年3月30日松戸市教育委員会規則第3号)
この規則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則(平成24年3月30日松戸市教育委員会規則第4号)
この規則は、平成24年4月1日から施行する。

附 則(平成25年3月15日松戸市教育委員会規則第4号)
この規則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則(平成30年3月13日松戸市教育委員会規則第2号)
この規則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則(令和4年3月29日松戸市教育委員会規則第6号)
この規則は、令和4年4月1日から施行する。

附 則(令和5年1月30日松戸市教育委員会規則第1号)
この規則は、令和5年4月1日から施行する。

別表(第11条関係)

- ・博物館協議会に関すること。
- ・資料選定評価委員会に関すること。
- ・市史編さんに関すること。
- ・市史編さん委員会に関すること。
- ・関係団体との連絡調整に関すること。
- ・資料の収集、保存及び展示に関すること。
- ・資料の調査及び研究に関すること。
- ・資料に関する講座、講演会、研究会等の開催に関すること。
- ・資料に関する目録、解説書、図録、調査研究、報告書等の作成に関すること。
- ・資料に関する相談、情報提供に関すること。
- ・博物館資料に関する閲覧、貸出等についての許可に関すること。
- ・博物館資料の寄贈、寄託に関すること。
- ・他の博物館、図書館、学校等との連絡及び協力に関すること。
- ・その他博物館の専門的事項に関すること。

第1号様式～第8号様式 省略

松戸市立博物館等資料選定評価委員会条例

(平成26年12月25日松戸市条例第28号)

(設置)

第1条 地方自治法(昭和22年法律第67号)第138条の4第3項の規定に基づき、松戸市立博物館

等資料選定評価委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(所掌事務)

第2条 委員会は、松戸市立博物館及び松戸市戸定歴史館における歴史に関する資料(以下「歴史資料」という。)の収集を適正かつ円滑に行うため、松戸市教育委員会(以下「教育委員会」という。)の諮問に応じ、次に掲げる事項について調査審議する。

- (1) 歴史資料の真がんに関する事項
- (2) 歴史資料の価格の適否に関する事項
- (3) 歴史資料の寄贈及び寄託の受入れ又は購入の適否に関する事項
- (4) 前3号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める事項

(組織)

第3条 委員会は、委員5人以内をもって組織する。

(委員)

第4条 委員は、学識経験を有する者その他教育委員会が必要と認める者のうちから教育委員会が委嘱する。

2 委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も、また、同様とする。

(任期)

第5条 委員の任期は、2年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(委員長及び副委員長)

第6条 委員会に委員長及び副委員長各1人を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第7条 委員会の会議は、委員長が招集し、委員長がその議長となる。

2 委員会は、委員の過半数の出席がなければ会議を開くことができない。

3 委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(意見の聴取等)

第8条 委員会は、必要があると認めるときは、会議に委員以外の専門的知識を有する者の出席を求め、意見若しくは説明を聴き、又は資料の提出を求めることができる。

(委任)

第9条 この条例に定めるもののほか、委員会の組織及び運営に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この条例は、平成27年4月1日から施行する。
(特別職の職員の給与及び費用弁償の支給に関する条例の一部改正)
- 2 特別職の職員の給与及び費用弁償の支給に関する条例(昭和31年松戸市条例第15号)の一部を次のように改正する。
別表2に次のように加える。

松戸市立博物館等資料選定評価委員会委員	日額 20,000円
---------------------	------------

※「松戸市立博物館等資料選定評価委員会設置要綱」については、「松戸市立博物館等資料選定評価委員会条例」(平成26年12月25日松戸市条例第28号)として条例化されたことに伴い、平成27年3月31日付で廃止となった。

松戸市史編さん委員会条例

(昭和55年3月26日松戸市条例第3号)

(設置)

第1条 郷土をより深く理解することによつて市民の愛郷心を振起させ、あわせて市勢発展の基礎資料となる松戸市史を編さんするために、松戸市史編さん委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、市長の諮問に応じ、松戸市史の編さんについて調査審議する。

(組織)

第3条 委員会は、5人の編さん委員で組織し、次に掲げる者のうちから市長が委嘱又は任命する。

- (1) 学識経験者
- (2) 市の職員

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、これを代理する。

(招集及び会議)

第6条 会議は、委員長が招集する。

(委任)

第7条 この条例に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、規則で定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この条例は、昭和55年4月1日から施行する。
(松戸市誌編さん委員会条例の廃止)
- 2 松戸市誌編さん委員会条例(昭和28年松戸市条例第23号)は、廃止する。
(松戸市役所部課設置条例の一部改正)
- 3 松戸市役所部課設置条例(昭和38年松戸市条例第3号)の一部を次のように改正する。
第2条総務部の項中「市誌編さん」を「市史編さん」に改める。

松戸市立博物館研究員設置要綱

(目的)

第1条 この要綱は、松戸市立博物館(以下「博物館」という。)の資料整備並びに学校教育及び社会教育における博物館の活用に関し、専門的な調査研究に資するため、博物館に研究員をおく。

(定数)

第2条 研究員の定数は、8人を超えない範囲内において、館長が定める。

(委嘱)

第3条 研究員は、博物館の業務に関し、学識経験を有する者のうちから、博物館館長が委嘱する。

(任期)

第4条 研究員の任期は、1年とする。ただし、年度中途に委嘱された研究員の任期は、当該年度末までとする。

(職務)

第5条 研究員は、次に掲げる職務に従事する。

- (1) 博物館の資料の収集、保管、展示等に関する専門的、技術的な調査研究
- (2) 学校教育及び社会教育における博物館の活用に関する専門的な調査研究
- (3) その他博物館の事業に関する専門的な調査研究

(会議)

第6条 館長は、研究員の職務の円滑な遂行を図るため、必要と認めるときは、研究員の会議を開催することができる。

(委任)

第7条 この要綱に定めるもののほか必要な事項は、館長が定める。

附 則

この要綱は、平成5年12月1日から施行する。

博物館資料の利用に関する要綱

(目的)

第1条 この要綱は、松戸市立博物館管理運営規則(平成5年3月26日松戸市教育委員会規則第3号)に定めるもののほか、松戸市立博物館(以下「博物館」という。)の博物館資料(博物館法(昭和26年12月1日法律第285号)第2条第4項に規定する博物館資料をいう。)の利用に関し必要な事項を定めるものとする。

(資料の館外貸出し)

第2条 博物館資料(以下「資料」という。)の貸出しを受けたものは、任意の書式による当該資料の借用書を提出するものとする。

2 資料の貸出しを受けたものは、次の各号に掲げる事項を遵守しなければならない。

- (1) 貸出資料の取扱いは、学芸員又はこれと同等の技能を有すると認められる者が行うこと。
- (2) 貸出資料の保管等のために要する費用は、全て貸出しを受けたものが負担すること。
- (3) 貸出資料を博物館資料貸出許可書(松戸市立博物館管理運営規則第5号様式)に記載された貸出目的以外の用に供してはならないこと。
- (4) 博物館資料貸出許可書に記載された事項を遵守すること。
- (5) 貸出資料を展示する場合は原則としてケース内展示とし、松戸市立博物館所蔵の旨を明示すること。
- (6) 貸出しを受けたものが貸出資料を滅失し又は毀損したときは、これによって生じた損害を賠償すること。
- (7) 博物館職員の指示に従うこと。
- (8) その他必要と認める条件。

3 貸出の条件に反する行為があるとき又は館務の都合により必要があるときは、貸出期間中であっても当該博物館資料の返還を求めることができる。この場合において生じた損害については、教育委員会はその責を負わないものとする。

(特別利用の申し込み)

第3条 資料を学術上の研究等のため特に利用しようとするものは、博物館資料特別利用申込書(様式第1号)を提出し、博物館資料特別利用承認書(様式第2号)の交付を受けるものとする。この場合において、対象の資料が寄託資料であるときは、所有者の承諾書を合わせて提出しなければならない。

2 前項の規定に関わらず、利用しようとする資料が博物館が所有し若しくは著作権を保有する写真資料等又は映画の著作物の場合は、写真資料等特別利用申込書(様式第3号)又は映像資料特別利用申込書(様式第4号)を提出し、写真資料等特別利用承認書(様式第5号)又は映像資料特別利用承認書(様式第6号)の交付を受けるものとする。

3 特別利用の承認を受けたものは、次の各号に掲げる事項を遵守しなければならない。

- (1) 承認書に記載された目的以外の用に供してはならないこと。
- (2) 承認書に記載された事項を遵守すること。
- (3) 出版物等に掲載する場合は松戸市立博物館所蔵の旨を明示し、博物館(寄託資料にあっては博物館及び資料の所有者)に当該出版物等を1部寄贈すること。
- (4) 利用にあたっては、博物館職員の指示に従うこと。
- (5) その他必要と認める条件。

(寄贈)

第4条 博物館に資料を寄贈しようとするものは、博物館資料寄贈申込書(様式第7号)を提出し、博物館資料受領書(様式第8号)の交付を受けるものとする。

(寄託)

第5条 博物館に資料を寄託しようとするものは、博物館資料寄託申込書(様式第9号)を提出し、博物館資料受託書(様式第10号)の交付を受けるものとする。

2 受託した博物館資料の館外貸出及び特別利用は、寄託者の承諾がある場合のほかは、行うことができない。

3 博物館資料の寄託期間は、受託した日の属する年度の4月1日から起算して1年とする。ただし、教育委員会が必要と認めるときは、期間を延長することができる。

4 寄託者が寄託期間の満了前に寄託契約を終了し資料の返還を求めるときは、寄託資料返還申込書(様式第11号)を提出するものとし、資料の返還を受けた後に教育委員会に任意の書式によ

る受領書を提出するものとする。

- 5 博物館資料受託書を滅失又は破損したときは、寄託者はこれらの事由を記載した書面を提出して博物館資料受託書の再交付を受けなければならない。

(寄託資料の一時返還)

第6条 寄託資料の一時返還を求めるときは、寄託資料一時返還申込書(様式第12号)を提出する。

- 2 一時返還の期間は60日を限度とする。ただし、教育委員会が必要と認めるときは、期間を延長することができる。

(寄託資料の所有者変更)

第7条 寄託者の都合により受託資料の所有権が移転するときは、寄託者は寄託資料所有者変更届(様式第13号)又は博物館資料寄託申込書(様式第9号)を提出し、新たに博物館資料受託書(様式第10号)の交付を受けなければならない。

(資料の一時預かり)

第8条 博物館が調査のためにその所有に属さない資料の一時預かりをするときは、資料一時預かり書(様式第14号)を交付し、資料を返却したときは資料受領書(様式第15号)を受領するものとする。

(様式)

第9条 前条までの規定に関わらず、教育委員会が必要と認めるときは他の書式により行うことができる。

(委任)

第10条 この要綱の施行に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附 則

- 1 この要綱は、令和5年7月1日から施行する。
- 2 松戸市立博物館資料取り扱い及び特別利用に関する要綱(平成5年12月1日施行)は廃止する。

松戸市立博物館紀要投稿規程

(目的)

第1条 この規程は、松戸市立博物館紀要(以下「紀要」という。)への投稿に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(資格)

第2条 紀要に投稿することができる者は、次の各号に定めるものとする。

- (1) 投稿時において松戸市立博物館の職員であ

る者

- (2) 投稿時において松戸市立博物館の研究員である者
- (3) 過去において松戸市立博物館の職員であった者
- (4) 松戸市立博物館が投稿を依頼した者
- (5) その他松戸市教育委員会が適当と認めた者

(審査)

第3条 原稿の掲載の可否は、松戸市立博物館紀要査読規程(平成23年10月1日施行。以下「査読規程」という。)にもとづいて松戸市立博物館紀要編集委員会(以下「編集委員会」という。)で査読の上決定し、著者に通知するものとする。

(投稿区分と枚数)

第4条 紀要の投稿区分と枚数は、次の各号に定めるところによる。

- (1) 論文70枚以内(400字詰原稿用紙換算)
- (2) 研究ノート50枚以内(同上)
- (3) 資料紹介30枚以内(同上)
- (4) その他 編集委員会の定めるところによる

2 前項の枚数には、本文、注、参考文献、図表を含めるものとする。

3 投稿する原稿は、未発表のものに限る(刊行予定のものは既発表とみなす)。

(投稿形式)

第5条 投稿の形式は、原則として電子文書によるものとし、電子メールの添付ファイルとして送信し、又は電子媒体を編集委員会事務局宛てに送付する方法によるものとする。併せて、電子文書とは別に、紙媒体に印字された原稿を一部送付する。

2 前項の規定にかかわらず、編集委員会が特に必要と認めたときは、紙媒体による投稿をすることができる。この場合における投稿部数は、4部とする。

3 前2項の原稿を投稿するときは、図1に示す投稿票を添付するものとする。

(締切)

第6条 投稿の締め切りは、毎年10月31日とする。

(校正)

第7条 原稿が受理された以後の本文の書き直しは、校正(明らかな誤字脱字を訂正することをいう。)を除き、これを認めない。

2 前項に規定する校正には、松戸市立博物館紀要執筆要領(以下「執筆要領」という。)にもとづいて形式を訂正することを含む。

3 著者による校正は初校のみとし、再校以後は編集委員会事務局が行うものとする。

(別刷の取り扱い及び掲載誌の贈呈)

第8条 著者には著作が掲載された号の紀要を5部贈呈する。

2 別刷が必要なときは、投稿時に編集委員会事務局あて必要部数を通知するものとし、別刷の作成に必要な経費は著者が負担する。

(委任)

第9条 この規程に定めるもののほか必要な事項は、松戸市立博物館長が別に定める。

附 則

この規定は、平成23年10月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成24年6月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

図1(用紙規格 J I S A 5)

投稿票

氏 名	
タイトル	
投稿区分	
原稿枚数(400字詰 原稿用紙換算)	

松戸市立博物館紀要編集委員会規程

(目的)

第1条 この規程は、松戸市立博物館紀要編集委員会(以下「編集委員会」という。)の設置に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(所掌事務)

第2条 編集委員会は、次の各号に掲げる事項について調査審議するものとする。

- (1) 松戸市立博物館紀要に投稿された原稿の掲載の可否に関すること。
- (2) その他松戸市立博物館紀要の編集・発行に関し必要な事項

(構成)

第3条 編集委員会の委員は、学識経験を有する者及び関係機関の職員のうちから2名以上の者を松戸市立博物館長(以下「館長」という。)が指名する。

2 編集委員会の委員長は、館長をもってあてる。

(会議)

第4条 編集委員会の会議は委員長が招集し、自ら議長となる。

(意見の聴取)

第5条 編集委員会は、会議に編集委員以外の者

の出席を求め、意見又は説明を聴くことができる。

(庶務)

第6条 編集委員会の庶務は、松戸市立博物館において処理する。

(委任)

第7条 この規程に定めるもののほか必要な事項は、松戸市立博物館長が別に定める。

附 則

この規程は、平成23年10月1日から施行する。

松戸市立博物館紀要査読規程

(目的)

第1条 この規程は、松戸市立博物館紀要(以下「紀要」という。)に投稿された原稿の査読に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(査読)

第2条 松戸市立博物館紀要編集委員会(以下「編集委員会」という。)は、紀要に投稿された論文、研究ノート及び資料紹介(以下「論文等」という。)について査読を行い、その結果を投稿者に通知するものとする。

2 編集委員会は、必要に応じて編集委員以外の者に査読を依頼することができる。

(査読方法)

第3条 編集委員会は、査読対象の論文等に関し、別表1に掲げる事項について評価を行う。

(判定)

第4条 編集委員会は、前条の評価に基づいて別表2に掲げる4段階の判定を行う。

2 前項の判定は、編集委員の過半数の賛成によって行うものとする。

(委任)

第5条 この規程に定めるもののほか必要な事項は、松戸市立博物館長が別に定める。

附 則

この規程は、平成23年10月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成24年6月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

別表1

1 形式

- (1) 表題・副題の適切さ
- (2) 章・節等の全体構成の適切さ
- (3) 原稿枚数の適切さ
- (4) 投稿区分の妥当性

2 内容

- (1) 素材及び資料の妥当性、提示方法
- (2) 論理展開の明確さ
- (3) 内容の正確さ、完成度
- (4) 結論の提示方法

3 図表等

- (1) 図表の必要性
- (2) 図表の作成、説明の適切さ

4 文献

- (1) 参照文献の妥当性、引用の適切さ

5 表現

- (1) 文章の表現力、読みやすさ

別表2

1 掲載可(再審査不要)

- (1) このままで掲載可
- (2) 指摘箇所訂正後に可

2 修正後再審査

- (1) 書き直し後に再審査
- (2) 投稿区分の変更を必要とする

3 掲載否

- (1) 既発表部分が多い
- (2) 「松戸市立博物館紀要」として不適當
- (3) 内容不可

4 判定不能

- (1) 一部他分野の専門家の判断を必要とする
- (2) その他

職員名簿（令和6年4月1日現在）

館長（非常勤）	渡辺 尚志
次長	染野 寿郎
館長補佐	加藤 尚美
主査	石渡 範子
主事	齋藤 美伽
主査・学芸員	富澤 達三
主査・学芸員	藤原 哲
主任主事・学芸員	西村 広経
主任主事・学芸員	米村 創
主事・学芸員	林 幸太郎
再任用・学芸員	中山 文人
再任用・学芸員	青木 俊也

人事異動

〈令和6年4月1日〉

新任：主任主事 米村 創
主査 石渡 範子

松戸市立博物館年報 第32号

発行日 令和7年9月12日

編集・発行 松戸市立博物館

〒270-2252

千葉県松戸市千駄堀671番地

電話番号 047-384-8181（代表）

https://www.city.matsudo.chiba.jp/m_muse/

印刷 株式会社 弘文社

Printed in Japan ©2024 MATSUDO MUSEUM

